3　被災地における研究書籍・論文等リスト

3.1　概要

前節に挙げた談話・音声資料以外の研究書籍及び論文等について、2012 年 2 月末現在において収集できている分を、県ごとに書籍と論文のリストとして、下の文献リスト一覧のとおり掲載する。

リストに記載しているのは、編著者、発表年、論題または書名（論文の場合は掲載雑誌等）、発行所・出版社、書籍の総ページ数または論文等では記述のあるページ箇所、対象地域（地域、郡、市町村または大字・字）、内容（分野）、そのほか「注」として、資料の性質について考慮すべき点について一部記してある。

【文献リスト一覧】

① 青森県文献リスト（書籍）　② 青森県文献リスト（論文）　③ 青森県文献リスト（市町村史）
④ 岩手県文献リスト（書籍）　⑤ 岩手県文献リスト（論文）　⑥ 岩手県文献リスト（市町村史）
⑦ 宮城県文献リスト（書籍）　⑧ 宮城県文献リスト（論文）　⑨ 宮城県文献リスト（市町村史）
⑩ 福島県文献リスト（書籍）　⑪ 福島県文献リスト（論文）　⑫ 茨城県文献リスト（市町村史）
⑬ 茨城県文献リスト（論文）　⑭ 千葉県文献リスト（論文）　⑮ 千葉県文献リスト（市町村史）

3.2　「内容」について

一覧表の「内容」の欄には、その研究が対象としている分野や内容を示した。次の一覧のように、まず大分類に従って分け、下位区分として、大分類それぞれ中小分類を設けてある。欄内への記入については、「《大分類》中分類または小分類」という形で記載してある。

【「内容」分類一覧 】

① **大分類** ：《記述的研究》《地理的分布》《世代差》《グロットグラム》《共通語化》

② **中小分類**：（中分類；小分類）

音声　；　音声、音韻、アクセント、イントネーション、その他
語彙　；　方言集、意味・用法、その他
文法　；　文法概説、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、
　　文末形式・文末表現、その他
方言意識
言語行動　；　談話分析、表現、その他
待遇表現　；　敬語、その他
談話資料
その他

なお「内容」の欄が空欄のものは、入手が困難などの理由によって内容確認ができていないものである。今後、入手次第確認を行っていきたい。

① 青森県文献リスト（書籍）

No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	簗瀬 栄	1906	教育適用南部方言集	八戸印刷	53	南部地方	《記述的研究》方言集	
2	青森県師範学校	1907	方言調査報告	小藤印刷所	16	–		
3	青 森 県	1908	青森県方言訛語	青森県庁	110	全域	《記述的研究》方言集	「総説」として津軽方言についての音声・音韻、また文法概説がある。南部方言については方言集あり。『青森県方言資料集 1』所収
4	東奥日報社	1932	青森県方言集(最新東奥日用語辞典所収)	東奥日報社	214(48)	全域	《記述的研究》方言集	
5	小井川潤次郎	1932	青森県八戸市近傍植物方言	[私製]	46	八戸市	《記述的研究》方言集	植物名。『青森県方言資料集 2』所収
6	青森県師範学校菅沼貴一	1935	青森県方言集	青森県師範学校	180	全域	《記述的研究》音韻、方言集、助詞・助動詞、活用	
7	菅沼貴一	1936	青森県方言集(改訂本)	今泉書店	190	全域	《記述的研究》音韻、方言集、助詞・助動詞、活用	
8	江渡益太郎	1949	正しく美しいことばの生活を求めて 私の方言研究ノート	三戸郡地引小学校	54	八戸市	《記述的研究》音韻、アクセント、《その他》方言矯正	南部方言についての言及
9	四戸 松三郎	1950	上北地名原義稿	四戸松三郎	66	上北郡		
10	青森県国語教育研究会	1955	ことばのほん	刀江書院	32	–		
11	青森県国語教育研究会	1955	ことばのほん解説篇	刀江書院	77	–		
12	日野 資純	1958	青森方言から共通語へ–音韻アクセントを中心として–		22	全域	《記述的研究》音声・音韻	青森県全般について。『青森県方言資料集 1』所収
13	津島金次郎	1958	文法を通してことばへの関心を高める一考察(ト)	津島金次郎	32	–		
14	寺井 義弘	1962	青森県南部方言考	八戸市教育委員会	112	南部地方	《記述的研究》音声・音韻、方言集、文法概説、活用	表紙には「昭和37年10月」とあるが、内書きに1962,9,25の日付あり。『青森県方言資料集3』所収
15	読売新聞社青森支局	1965	青森のことば	読売新聞社青森支局	31	全域	《記述的研究》その他	新聞の連載記事。雑多な内容
16	此島 正年	1966	青森県の方言	青森県文化財保護協会	220	全域	《記述的研究》音韻、アクセント、イントネーション、方言集、意味・用法、助詞、活用、条件表現、《共通語化》音韻、意味・用法、助詞、敬語	共通語学習法の記述も
17	九学会連合下北調査委員会	1967	下北–自然・文化・社会–	平凡社	563(50)	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》アクセント、助詞、活用、ボイス、敬語、《地理的分布》アクセント、方言集、《グロットグラム》方言集	
18	菅沼貴一編	1975	青森県方言集(再刊)(原本は1936年刊)	国書刊行会	190	全域	《記述的研究》音韻、方言集、助詞、活用	
19	工藤祐	1979	津軽と南部の方言	北方新社	250	南部地方	《記述的研究》方言集	青森県の文化シリーズ15。津軽・南部の方言についての語彙集。自然の部(天象、地勢)、生物の部(鳥獣、魚介、昆虫、植物)
20	平山輝男編	1982	北奥方言基礎語彙の総合的研究	桜楓社	642	八戸市	《記述的研究》音韻、アクセント、方言集、意味・用法、助詞、活用、ボイス、文末形式・文末表現、敬語	
21	佐藤 政五郎	1982	南部のことば	伊吉書院	373	八戸市	《記述的研究》方言集	約17000語
22	館 光子（本名 松館光城）	1983	ことばのごもず 方言が語る私の八戸	八戸地域社会研究会	164	八戸市	《記述的研究》音韻、方言集、意味・用法、その他、談話、方言意識	八戸町大字塩町。八戸で話されている方言全般について広く記述されている。但し、文法事項などは少ない。主に語彙、談話的資料、昔話など。
23	高松敬吉編	1984	下北半島昔話集	岩崎美術社	257	下北郡	《記述的研究》談話資料	全文方言口調(関敬吾『日本昔話集成』よりの収録数が多い。すべて地元の話者から採録)共通語対訳はなし(接続助詞等一部括弧書きで記載する程度)
24	高橋圭三	1984	教育適用南部方言集：共通語索引並びに解説	[私製]	31	南部地方	《その他》簗瀬栄(1906)の共通語索引	
25	大嶋 孜	1986	下北半島東通村の昔話 わたしの民話ノート	青森県国民教育研究所	212	東通村	《記述的研究》文法概説、その他(昔話)	一村内のものとしては詳しい。「大利部落の方言」とセットの内容
26	大嶋 孜	1986	下北半島大利部落の方言	青森県国民教育研究所(青森教文社)	172	東通村	《記述的研究》方言集	「東通村の昔話」とセットの内容
27	寺井 義弘	1986	青森県南・岩手県北・八戸地方方言辞典 古語出典付	寺井義弘	452	八戸市	《記述的研究》方言集、文法概説	
28	佐藤 政五郎	1987	南部のことば 第二版増補新版	伊吉書院	196	八戸市	《記述的研究》方言集	『南部のことば』より4466語増補

No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
29	佐藤 政五郎	1990	「第二版 南部のことば」補遺集	佐藤 政五郎	47	八戸市	《記述的研究》方言集	『南部のことば』第二版の後に収集した2069語をまとめたもの
30	佐藤 政五郎	1992	南部のことば 第3版 増補改訂	伊吉書院	206	八戸市	《記述的研究》方言集	「第二版 南部のことば補遺集」までの23400余語をまとめたもの
31	井上史雄;篠崎晃一;小林 隆;大西拓一郎	1994	東北方言考1 東北一般・青森県〈日本列島方言叢書2〉	ゆまに書房	594	–		
32	岡田一二三	1996	みちのく 南部の方言	伊吉書院		南部地方		
33	鶴田要一郎	1999	ふるさと歳時記2	青沼社	170			
34	北海道教育委員会;青森県教育委員会;岩手県教育委員会編・天野武監修	2000	北海道・東北地方の民俗地図1 北海道・青森・岩手	東洋書林	324(62)	東通村、六ヶ所村、三沢市、百石町(おいらせ町)、八戸市、階上町	《地理的分布》意味・用法	
35	青森県	2003	青森県史 自然編 生物 別冊 青森県の生物呼称	青森県	238	全域	《地理的分布》意味・用法	
36	津南弁策	2003	新漫才集2 津軽弁vs南部弁	北の街社	220	津軽地方、南部地方	《その他》	津軽弁と南部弁によるコントシナリオのようだが、どこが南部弁なのかわからない。1巻に解説があるらしい。」
37	平山輝男ほか編著 佐藤和之;大島一郎;大野真男;久野真;久野マリ子;平沢洋一;櫛引洋子執筆	2003	青森県のことば〈日本のことばシリーズ2〉	明治書院	286	全域		
38	津南弁策	2004	新漫才集3 津軽弁vs南部弁	北の街社	222	津軽地方、南部地方	《その他》	津軽弁と南部弁によるコントシナリオのようだが、どこが南部弁なのかわからない。1巻に解説があるらしい。」
39	佐藤政五郎著 佐藤暹;佐藤いつ編著	2006	へんだら、まんつ 南部のことば抄	木村書店	278	南部地方	《記述的研究》方言集	方言語彙の中でも古語の残存と思われる語について掲載し解説している。
40	不明	19—	八戸附近方言及訛語	[私製]	4	八戸市	《記述的研究》方言集	『青森県方言資料集 1』所収
41	八戸郷土研究会	19—	方言採集録	[私製]	127	八戸市	《記述的研究》方言集	名詞は「天文」「地理」など語彙ごとにあり、ほかに「代名詞」「動詞」など品詞ごとにまとめられている

② 青森県文献リスト（論文）

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
1	菅沼 貴一	1933	「青森県方言集」より	国語教育18-3		-		
2	菅沼貴一	1933	青森県の方言	郷土号1（青森県師範学校校友会）	99-132	全域	《記述的研究》音韻、方言集、助詞・助動詞、活用	
3	八角 三郎	1933	陸奥下北半島地名考	旅と伝説6-6		下北郡		
4	内田 武志	1934	青森県方言調査報告	土の香12-3	46-71	八戸市、百石町	《記述的研究》方言集	
5	永田 吉太郎	1936	青森県八戸市方言稿	方言6-2	153-155	八戸市	《記述的研究》方言集、意味・用法、助詞、活用	
6	佐藤 政五郎	1936	南部方言訛語序説	郷土号4（青森県師範学校校友会）	(6)	南部地方		
7	宮良 当壮	1940	青森県秋田両県に於けるP音	〔安藤教授還暦祝賀論文集〕	1017-1040	全域	《記述的研究》音声、音韻	
8	北山 長雄	1951	青森県方言音韻語法の特徴形の実態(M)	国研報告書	(6)	-		
9	北山 長雄	1951	青森県方言の概観(M)	国研報告書	1-113	全域	《記述的研究》音声・音韻、文法概説、方言集、《地理的分布》語彙	地理的分布は「メダカ」と「神官」
10	大西 久枝	1952	青森県下北郡方言に於ける音韻について	文学論藻2	18-29	下北郡	《記述的研究》音韻	
11	此島 正年	1952	青森（ことば風土記）	言語生活12	38-39	津軽・南部	《記述的研究》文法概説	
12	豊巻 英吉	1953	南部（八戸）方言に於ける助動詞について－特にサル・エルについ	国語学12	96-97	八戸市	《記述的研究》活用、助動詞	
13	三上猛美	1954	青森県小学校児童の国語学力検査	青森県教育研究所研究紀要2	39-130	?	《記述的研究》音韻	「すずめ」「えんぴつ」「あたらしい」「いぬ」の表記の誤りが「日常の発音のあやまりが誤答の原因」と考察しているのみ。(p.73-74)
14	此島 正年	1954	青森県小学校国語能力調査	青森県教育研究所研究紀要3	(6)	-		
15	此島 正年	1954	青森方言の敬語法	弘前大学人文社会	39-45	津軽・南部	《記述的研究》敬語	
16	小島 俊之亮	1956	下北地方の田名部弁（ことば風土記）	言語生活52	75-76	下北地方	《記述的研究》音声、文末形式・文末表現	
17	此島 正年	1956	青森	〔NHK国語講座4 方言の旅〕	(6)	八戸市	《記述的研究》アクセント、助詞	
18	小島 俊之亮	1956	下北方言の表情（ことば風土記）	言語生活63	74-75	下北郡	《記述的研究》音声、方言意識	
19	此島 正年	1960	方言と共通語の交渉－青森県言語の語法を例として－	弘前大学人文社会22	105-116	全域	《記述的研究》文法概説、助詞、形容詞・助動詞など	主に津軽地方
20	此島 正年	1961	方言の実態と共通語化の問題点　青森	〔方言学講座〕2	127-149	津軽・南部	《記述的研究》音韻、アクセント、文法概説、助詞、《共通語化》音声、音韻、アクセント、助詞、敬語	
21	寺井 義弘	1963	青森県南部方言考（抄）	国語研究16（日本書院）	(8)	八戸市	《記述的研究》音韻、文法概説	
22	川本 栄一郎	1963	青森県下北方言におけるウ段音	国語学研究3	74-85	東通村	《記述的研究》音声、音韻、《地理的分布》音声、音韻	
23	柴田 武	1964	下北方言の分布	人類科学17	72-87	東通村	《地理的分布》アクセント、方言集	
24	此島 正年	1965	下北方言語法考	弘前大人文社会35-5	53-64	東通村	《記述的研究》文法概説、助詞、活用、敬語、《地理的分布》文法概説	
25	柴田 武	1965	下北の方言	都立大学方言学会会報6	(6)	東通村	《記述的研究》アクセント	
26	川本 栄一郎	1965	青森県下北方言の「イ」と「ウ」	国語学61	16-28	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》音韻、《地理的分布》音韻	
27	日野 資純	1966	下北地方における共通語教育 -従来の成果と今後の問題点-	人類科学18	146-171	東通村	《記述的研究》音声、《共通語化》音声、アクセント、文法概説、助詞、文末形式・文末表現	
28	川本 栄一郎	1966	青森県下北地方のウ段拗長音	国語学研究6	1-14	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》音声、音韻、《地理的分布》音声、音韻、《世代差》音声	
29	川本 栄一郎	1966	青森県下北地方における「あやめ」の方言分布とその解釈	国語学67	47-59	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》音声、意味・用法、《地理的分布》音声	
30	佐藤喜代治・加藤正信	1974	青森県東南部・岩手県西北部地方の言語調査報告—音韻・アクセント	日本文化研究所研究報告別巻11	1-17	三沢市、百石町	《記述的研究》音声、音韻、アクセント、《地理的分布》アクセント、意味・用法	
31	佐藤喜代治・加藤正信	1975	青森県東南部・岩手県西北部地方の言語調査報告—文法・語彙の部—	日本文化研究所研究報告別巻12	1-20	三沢市、百石町	《記述的研究》助詞、条件表現、助動詞・動詞など、《地理的分布》意味・用法	
32	井上 史雄	1976	集落内の言語差－下北半島上田屋－	北海道大学人文科学論集12	65-101	東通村	《地理的分布》意味・用法、《世代差》意味・用法、《共通語化》意味・用法	
33	加藤正信	1978	八戸方言の系統	伝統と未来 八戸市民大学講座講演集1977	102-113	八戸市	《記述的研究》音声、アクセント、助詞、方言区画、《共通語化》その他	
34	川本 栄一郎	1982	青森県における「鰤」の成長段階名	文経論叢17-3人文2	101-118	全域	《記述的研究》意味・用法、《地理的分布》意味・用法	
35	佐々木 隆次	1982	あいさつお国めぐり（12）青森の巻—直截にして簡明	言語生活365	94-95	津軽・南部・下北	《記述的研究》意味・用法	
36	此島 正年	1982	青森県の方言	〔講座方言学4 北海道・東北地方の方言〕	215-236	全域	《記述的研究》音声、音韻、アクセント、文法概説、助詞、研究史・区画	
37	高橋宏一・二ツ矢昌夫・竹浪三三正	1982	青森県言語調査の統計的解析（1）	Science Reports of the Hirosaki Univ. 29-2	93-111	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》統計	
38	此島 正年	1983	青森方言語法にまつわる諸問題　共通語との関連を主として	〔現代方言学の課題 1〕	121-137	主に西部（三沢市あり）	《記述的研究》文法概説、助詞、活用、《共通語化》助詞、活用、動詞など	
39	二ツ矢昌夫・高橋宏一	1983	青森県言語調査の統計的解析（2）	Science Reports of the Hirosaki Univ. 30-1	11-19	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》統計	
40	川本 栄一郎	1984	青森県方言におけるビッキとモッケとゲアロの言語地理学的考察	文経論叢19-3人文4	85-111	全市町村	《記述的研究》意味・用法、《地理的分布》意味・用法	
41	大阪 真理	1984	青森県における親族語彙（1）	方言誌あおもりけん2	10-20	東通村、六ヶ所村、三沢市、八戸市	《記述的研究》意味・用法、《地理的分布》意味・用法	広く青森全域に渡った調査、「祖父」を意味する方言の分布
42	佐々木 隆次	1984	語源めぐり歩き	方言誌あおもりけん2	21-29	六ヶ所村、三沢市	《記述的研究》意味・用法	「おばあさん」に関する語彙の記載あり

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
43	八条 志馬	1985	富山地方と徳島、大阪、青森、北海道の方言研究	北海道方言研究会会報10	(4)	?	《記述的研究》意味・用法	
44	大阪 真理	1985	青森県における親族語彙(2)	方言誌あおもりけん3	4-26	東通村、六ヶ所村、三沢市、八戸市	《記述的研究》意味・用法、《地理的分布》意味・用法	広く青森全域に渡った調査、「祖母」「父」「母」を意味する方言の分布
45	渡辺修平	1985	青森アクセントについて　その1	方言誌あおもりけん3	1-3	全域	《記述的研究》アクセント	
46	井上 史雄	1986	〈新方言〉と共通語の20年後　下北半島上田屋	東京外国語大学論集36	62-80	東通村	《共通語化》語形	
47	八条 志馬	1986	方言の研究　青森、秋田、北海道	北海道方言研究会会報13	(3)	-		
48	館 光子	1986	謡曲と八戸	方言誌あおもりけん4	1-3	八戸市	《記述的研究》八戸の言葉に関する雑感・随想	八戸の言葉に関する雑感・随想
49	大阪 真理	1986	青森県における親族語彙(3)	方言誌あおもりけん4	3-26	東通村、六ヶ所村、三沢市、八戸市	《記述的研究》意味・用法、《地理的分布》意味・用法	広く青森全域に渡った調査、「兄」「姉」「末っ子」を意味する方言の分布
50	佐々木 隆次	1986	「グンズガサエビ」の「グンズ」を求めて	方言誌あおもりけん4	27-38	三沢市、八戸市	《記述的研究》意味・用法、《地理的分布》意味・用法	「グンズ」に関する調査(語彙)、ただし被災地域に関するものは少ない
51	村上譲	1986	「クラバネァ」	方言誌あおもりけん4	50-51	三戸郡	《記述的研究》意味・用法、活用	
52	此島 正年	1987	青森方言雑考	方言誌あおもりけん5	1-4	八戸市	《記述的研究》意味・用法、条件表現、文末形式・文末表現	「ウザネハク」、「マイネ」、「行クンダ」「起キンダ」などの命令法
53	高山 治	1987	県内高校生の方言意識調査(1)	方言誌あおもりけん5	22-33	八戸市	《記述的研究》方言意識、《地理的分布》方言意識	青森、弘前、八戸の高校生を対象としており、各市間での比較、男女差にも触れている
54	館 光子	1987	訛りは国の手形	方言誌あおもりけん5	38-39	八戸市	《記述的研究》方言に対する雑感	方言に対する雑感、「なしろがえし」を八戸の商家で隠語として使っているという記述あり
55	川本 栄一郎	1988	青森県における「旧暦六月一日」を表わす名称の言語地理学的考察	〔国語語彙語法論叢 此島正年博士喜寿記念〕	634-654	東通村、六ヶ所村、三沢市、百石町、八戸市、階上町	《地理的分布》方言集、意味・用法	
56	川本 栄一郎	1988	青森県における「つらら」と「氷」の方言分布	方言誌あおもりけん6	11-15	東通村、六ヶ所村、三沢市、百石町、八戸市、階上町	《地理的分布》意味・用法	
57	高山 治	1988	県内高校生の方言意識調査(2)	方言誌あおもりけん6	49-82	八戸市	《記述的研究》文末形式・文末表現、方言意識	青森、弘前、八戸の高校生を対象としており、各市間での比較、男女差にも触れている
58	一戸精一	1989	「方言ノート」から	方言誌あおもりけ	32-43	?	《記述的研究》意味・用法	
59	森下 喜一	1991	地域別・年齢別にみた青森方言 アの変化とその過程について1・2音節名詞を中心に	〔日本語論考〕	128-144	八戸・十和田・野辺地・むつ・弘前・青森・五所川原・今別	《記述的研究》アクセント、《地理的分布》アクセント、《世代差》アクセント	
60	森下 喜一	1991	青森方言アクセントの型とその変化について三・四音節語を中心に	作新学院大学紀要1	113-132	八戸市	《記述的研究》アクセント	
61	大西 拓一郎	1992	青森県八戸市新井田方言における身体感覚を表すオノマトペ	方言資料叢刊2	13-16	八戸市	《記述的研究》方言集、意味・用法	
62	葛西孜	1991	女子大生の方言・共通語意識	方言誌あおもりけん9	1-11	全域	《記述的研究》方言意識	女子短大生の方言意識に関する調査
63	館 光子	1992	方言随想「メドツ」と「カダル」	方言誌あおもりけん10	53-55	八戸市	《記述的研究》意味・用法	「メドツ」(かっぱ)と「カダル」(参加する)に関する
64	舘花久二男	1992	ケガヅの話(1)	方言誌あおもりけん10	50-52	八戸市	《記述的研究》談話資料	八戸方言による、八戸の昔話の記述
65	葛西孜	1992	女子短大生の方言使用状況	方言誌あおもりけん10	1-13	全域	《記述的研究》意味・用法、方言意識	女子短大生の方言使用に関する調査
66	岡田 一二三	1993	下北のサイとサマエ	方言誌あおもりけん11	32-33	下北地方、八戸市	《記述的研究》意味・用法	下北の待遇表現、雑感に近い
67	舘花久二男	1993	ケガヅの話(2)　その2 ハチネンケガヅ　八年続いた飢饉	方言誌あおもりけん11	34-35	八戸市	《記述的研究》談話資料	八戸方言による、八戸の昔話の記述
68	葛西孜	1993	「女性語」使用の実態と意識—女子短大生の場合—	方言誌あおもりけん11	1-31	全域	《記述的研究》意味・用法、条件表現、文末形式・文末表現、方言意識	文末表現を中心に、女子短大生の女性語使用に関する調査
69	川本 栄一郎	1994	津軽と南部のことば	〔国語論究4　現代語・方言の研究〕	156-181	全域	《地理的分布》意味・用法、文法概説	
70	川本 栄一郎	1994	青森県と富山県における「かぼちゃ」の方言分布とその変遷	国語国文学16(弘前大学)	(21)	東通村、六ヶ所村、三沢市、百石町、八戸市、階上町	《記述的研究》意味・用法、《地理的分布》意味・用法	
71	小泉 智子	2003	六ヶ所村における方言語彙	弘学大語文 29	8-15	六ヶ所村	《記述的研究》意味・用法、《共通語化》意味・用法	
72	佐藤 亮一	2006	青森県における「あさっての翌々日」を意味するキササッテの由来について　大正大学学生、大坪俊介君の意見をヒントとして	国文学踏査 18 (大正大学国文学会)	304-312	LAJに準拠	《記述的研究》意味・用法、語源、《地理的分布》意味・用法	
73	吉田 雅昭	2008	東北方言における基本的時間表現形式について 形式の変化と文法体系との相関	日本語の研究4-2 (日本語学会)	45-60	青森市・八戸市ほか県外	《記述的研究》テンス・アスペクト	
74	津田 智史	2011	東北諸方言アスペクトの捉え方	東北文化研究室紀要52	180-166	六ヶ所村、三沢市、八戸市	《記述的研究》テンス・アスペクト、《地理的分布》テンス・アスペクト	

※ 頁数で括弧書きになっているものは総ページ数。

③ 青森県文献リスト（市町村史）

No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	正部家 奨	1977	階上町誌	階上町	799-830	階上町	《記述的研究》方言集	第五章 方言・訛語
2	東通村史編集委員会	1997	東通村史 民俗・民俗芸能編	東通村	376-433	東通村	《記述的研究》語彙、音韻、助詞、その他	岡田一二三著 第九節「言語」、エッセイ的な概説あり
3	八戸市史編纂委員会	2005	新編 八戸市史 別編自然編	八戸市史編纂委員会	485-501	八戸市	《記述的研究》語彙その他	第2部 第6章 方言呼称に関する一考察
4	八戸市史編纂委員会	2010	新編 八戸市史 民俗編	八戸市史編纂委員会	519-539	八戸市	《記述的研究》方言集その他	第七章 第二節 ことば・方言

④ 岩手県文献リスト（書籍）

No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	八重樫真	1922	釜石町方言誌	日本民俗研究会	116	釜石市	《記述的研究》音韻、文法概説、方言集	
2	田鎖直三	1928	気仙郡方言	[私製]	42	気仙郡	《記述的研究》方言集	岩手県方言資料集 2
3	上閉伊郡釜石尋常高等小学校郷土教育研究部	1931	釜石地方方言集	上閉伊郡釜石尋常高等小学校郷土教育研究部	23	釜石市	《記述的研究》方言集	『岩手県方言資料集 1』所収。天体ノ部、地文ノ部などに分けられた語彙集
4	下閉伊郡船越尋常高等小学校	1931	般越村ヲ中心トセル発音ノ誤リト方言訛語	下閉伊郡船越尋常高等小学校	16	山田町	《その他》方言矯正、共通語教育	『岩手県方言資料集 1』所収。発音の矯正や共通語教育を目的としたもの
5	八重樫 真	1932	岩手県釜石町方言誌(ト)	日本民俗研究会	116	釜石市	《記述的研究》音韻、方言集、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、敬語	語数多い。
6	佐藤 文治	1954	気仙地方のことば 社協シリーズ第2集	大船渡市教育委員会	12	気仙郡（大船渡市）	《記述的研究》語彙、意味・用法	気仙郡に見られる方言語彙について意味や語源などについてエッセイ的に解説。
7	遠野高校社会科研究会	1955	上閉伊方言集		68	上閉伊郡		
8	小松代融一	1959	岩手方言の語彙(岩手方言研究第三集)	岩手方言研究会	406	全域	《記述的研究》方言集	南部・伊達のどの市町村のものかは不明
9	小松代融一	1961	岩手方言研究史考(岩手方言研究第二集)	岩手方言研究会	1085	全域、九戸郡、気仙郡、宮古市、山田町、釜石市	《記述的研究》音韻、アクセント、方言集、意味・用法、語源、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、敬語、先行研究一覧・先行研究	古いが分量多い。過去の研究・資料がわかる。
10	金野 静一・菊池 武人	1964	気仙方言誌	金野静一・菊池武人	170	気仙郡	《記述的研究》文法概説、方言集	
11	佐藤 文治	1965	気仙ことば	気仙ことば刊行会	147	気仙郡	《記述的研究》方言集	
12	日本放送協会	1966	全国方言資料第1巻 東北・北海道編	日本放送出版協会	369(28)	宮古市	《記述的研究》談話資料	自由会話×2、あいさつ
13	西井信男	1972	岩泉地方の方言訛語	岩泉町教育委員会	142	岩泉町	《記述的研究》方言集	巻末に「わらべ謡、はやしことば、譬集」あり。
14	松村佐紀子	1975	岩手県上閉伊郡大槌方言資料2	松村佐紀子	68	大槌町	《記述的研究》談話資料	
15	金野 静一	1976	気仙地方の俚諺第2版	大船渡市教育委員会教育課	16	気仙郡		
16	佐藤 文治	1976	気仙地方のことば第2版	大船渡市教育委員会教育課	12	気仙郡		
17	本堂寛	1976	岩手県閉伊川流域言語地図集	岩手大学教育学部国語学研究室	116	宮古市	《地理的分布》語彙	『日本言語地図』にある75項目を閉伊川流域で調査し、地図化したもの
18	金野菊三郎	1978	気仙方言辞典 付・音韻と語法	大船渡芸術文化協会	172	気仙郡	《記述的研究》音声・音韻、活用、助詞・助動詞、方言集、その他（諺）	
19	佐藤文治	1980	気仙ことば（第2版）	大船渡市立博物館	234	気仙郡	《記述的研究》方言集	佐藤文治（1965）の再版。内容はほとんど同じで、こちらは校正後書きが付されている。
20	本堂寛	1980	岩手県山田町 山田ことば辞典	岩手大学教育学部国語学研究室	185	山田町	《記述的研究》方言集、助詞・助動詞	
21	国立国語研究所	1981	方言談話資料(5) 岩手・宮城・千葉・静岡	秀英出版				
22	飯豊毅一、日野資純、佐藤亮一	1982	講座方言学4—北海道・東北地方の方言—	国書刊行会	442(33)	全域	《地理的分布》アクセント、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、敬語	概説書
23	伊藤麟市	1982	宮古の方言と敬語	田中タイプ印刷	189	宮古市	《記述的研究》方言集、敬語	「第一部 宮古の方言」として語彙集になっている。カタカナ表記。 「第二部 敬語編」として具体的使用例を挙げながら語句レベルで解説を加えている。 「第三部 宮古地方の諺 譬えことば考」の補遺として俚諺も多少出る。 巻末の近隣地域16地点の語彙対照表もあり。
24	大槌町民話研究会	1982	ふるさと大槌 吉里吉里方言辞典	三協企画出版部	63	大槌町	《記述的研究》方言集、表現	吉里吉里弁会話編として「店頭において」「トイレを尋ねるとき」などあり。
25	佐藤政五郎	1982	南部のことば	伊吉書院	373	洋野町、久慈市	《記述的研究》方言集	辞典。主は青森方言のため岩手の記述は少な
26	菅野 嘉七	1989	気仙郡における方訛言の調査	共和印刷企画センター	255	気仙郡	《記述的研究》方言集	
27	堀米 繁男	1989	種市のことば 沿岸北部編	種市町歴史民俗の会	224	洋野町	《記述的研究》助詞・助動詞、方言集	
28	山浦 玄嗣	1989	ケセン語入門 改訂補足版	共和印刷企画センター	464	気仙郡	《記述的研究》音声、音韻、アクセント、イントネーション、意味・用法、文法概説、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、敬語	教科書風
29	田老町教育委員会	1989	郷土民俗文化遺産ガイド ふるさと資料集	田老町教育委員会	161（99-107）	田老町	《記述的研究》方言集	他に「民話伝説、口碑伝説、なぞなぞ遊び、俗信・迷信」などあり。
30	九里 拓洋	1990	田野畑の諺(たとえひ	九里 拓洋	118	田野畑村	《記述的研究》方言集、その他（諺）	
31	山田町教育委員会	1990	山田の方言1	山田町教育委員会	2	山田町		

No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
32	山田町教育委員会	1994	山田の方言2	山田町教育委員会	31	山田町	《記述的研究》方言集、談話資料	『山田の方言Ⅰ』に追加する語または新たに漁業関係用語集も附。三編の談話資料にも共通語対照で挙げられている。
33	山浦 玄嗣	1992	みんなのケセン語1、2	山浦 玄嗣	2	気仙郡		
34	小山 正平	1997	わたくしの音語論 三陸地方の古代史を読み解く 私家版	耕 風 社	301	三陸地方		
35	坂口忠	1999	宮古のことば	坂口忠	300	宮古市	《記述的研究》意味・用法	
36	北海道教育委員会;青森県教育委員会;岩手県教育委員会編 天野武監修	2000	北海道・東北地方の民俗地図1 北海道・青森・岩手	東洋書林	324(142)	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》方言集	民俗地図。方言に関するものは半分程度。
37	山浦 玄嗣	2000	ケセン語大辞典 上 1.文法編 2.語彙編(A～M)	無明舎出版	1445	気仙郡	《記述的研究》音韻、アクセント、イントネーション、意味・用法、文法概説、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、敬語	分量多く、記述詳細。
38	山浦 玄嗣	2000	ケセン語大辞典 下 2.語彙編(N～Z・記号)付録・和ケ索引	無明舎出版	1366	気仙郡	《記述的研究》意味・用法	分量多く、記述詳細。
39	平山輝男ほか	2001	〈日本のことばシリーズ3〉岩手県のことば	明治書院	212	全域、久慈市、野田村、大船渡市、陸	《記述的研究》音韻、アクセント、方言集、意味・用法、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト	概説書
40	坂口忠	2001	宮古のことば2	坂口忠	351	宮古市	《記述的研究》意味・用法、表現、談話資料	道での挨拶(朝、昼、夕、夜)やさまざまな言語行動が載っている。
41	田中宣廣	2005	付属語アクセントからみた日本語アクセントの構造	おうふう	548	宮古市	《記述的研究》アクセント	
42	関谷徳夫	2007	いとしく おかしく 懐かしく—私の吉里吉里語辞典	関谷徳夫	527	大槌町	《記述的研究》方言集	
43	堀米 繁男	2008	種市のことば 解説編	種市町歴史民俗の会	227	洋野町	《記述的研究》方言集、意味・用法	各語の用法が割合詳細に記されている。
44	田鎖直三	19—	南部地方方言訛語調草稿	[私製]	36	南部地方	《記述的研究》方言集	「簗瀬栄氏ノ昭和38年11月起草、昭和39年1月発行(八戸印刷所)セル南部方言集ハ略之ニ同ジ」とある。

⑤ 岩手県文献リスト（論文）

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
1	橘正一	1931	岩手県のジャンケンの掛け声	方言と土俗2-3	24-31	洋野町、久慈市、野田村、山田町、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》方言集	語数多い。説明あり。
2	橘正一	1931	岩手県海岸の風の名	方言と土俗2-6	11-13	洋野町、久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》方言集	説明なし
3	宮良当社	1941	宮城・岩手両県方言調査小報	方言研究3	61-67	大槌町、釜石市	《記述的研究》《地理的分布》音韻	記述少ない
4	東条操	1947	方言境界線の問題－岩手方言に例をとる－	日本の言葉1-3	83(19)-84(20)	全域、九戸郡、下閉伊郡、上閉伊郡	《地理的分布》アクセント、方言集	説明少ない
5	柴田武	1955	日本語のアクセント体系	国語学(21)	44-69	宮古市	《地理的分布》アクセント	体系を表にまとめる。東京語との比較も少々。
6	小松代融一	1957	方言の旅　三陸沿岸のことば(岩手)	NHK国語講座3-4		三陸地方		
7	柴田武	1957	方言の手帳3 ズーズー弁	放送文化12-11	54-55	宮古市	《地理的分布》音韻	ズーズー弁中心に東北地方から北陸、出雲地方の差を見たもの。
8	見坊 豪紀	1960	小松代融一著「岩手方言の語彙」	言語生活102	75-76	全域	《記述的研究》方言集	書評、小松代融一『岩手方言の語彙』について
9	小松代融一	1961	岩手のことば	言語生活117	77-79	岩泉町、山田	《記述的研究》音韻、方言集	コラム的
10	小松代融一	1961	方言の実態と共通語化の問題点　岩手	方言学講座2	177-203	全域	《記述的研究》音韻、アクセント、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、敬語	概説
11	柴田武	1961	ズーズー弁でない東北方言	国語学研究1	1-16	洋野町（旧種市町）、岩泉町	《記述的研究》音声、音韻、アクセント	岩泉や種市に見られる非ズーズー弁について、被災地は旧種市町のみ対象
12	柴田武	1962	岩手県岩泉付近の非ズーズー弁	国語学研究2	49-59	洋野町（旧種市町）、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市（旧田老町、旧川井村含む）	《記述的研究》音声、音韻、《地理的分布》音声、音韻、《世代差》音声、音韻	岩泉中心に周辺沿岸地域の調査、二拍・三泊名詞が主、ズーズー弁や全国の諸方言との歴史的関係の考察あり
13	小松代融一	1964	岩手県の方言区画	日本の方言区画	159-174	全域	《記述的研究》先行研究の区画紹介、《地理的分布》助詞、ボイス、敬語	区画に関する問題点にも触れる
14	本堂寛	1964	岩手県方言における敬語秩序についての一考察	国語学研究 (4)	24-37	洋野町、久慈市、野田村、普代村、宮古市、山田町、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》敬語	調査結果・考察詳細
15	高橋圭三	1965	東北方言の味一南部地方のことば一	言語生活168	80-81	不明（南部とのみ記述あり）	《記述的研究》意味・用法、その他	コラム、対象や調査方法の記述無し
16	佐藤喜代治	1966	岩手県三陸地方北部の言語調査報告	日本文化研究所研究報告別4	11-56	洋野町　久慈市　野田村　普代村　田野畑村　岩泉町　宮古市	《記述的研究》音韻、アクセント、助詞、活用、条件表現、《地理的分布》音韻、アクセント、意味・用法、助詞	分量多く詳細
17	坂口　忠	1966	岩手県宮古市方言語彙	研究紀要(宮古市教研)3	1-113	宮古市	《記述的研究》方言集	
18	川本栄一郎	1967	三陸地方北部におけるサ行音とザ行音	日本方言研究会第4回発表原稿集		三陸地方		
19	坂口　忠	1967	岩手県宮古市方言文法教育序説	研究紀要(宮古市教研)4	1-58	宮古市	《記述的研究》助詞、活用、その他（指示表現、質問・疑問）、表現、敬語、《その他》方言教育、方言資料	
20	本堂寛	1967	岩手県方言の系統と区画について	一関工高専研究紀要1	431-459	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》活用、条件表現、文末形式・文末表現	分布図多数
21	本堂寛	1968	岩手県方言における文末助詞「ナハン」について	国語学研究 (8)	11-20	洋野町　岩泉町　宮古市　釜石市	《地理的分布》助詞、文末形式・文末表現、《世代差》助詞、文末形式・文末表現	男女差に関する記述含む

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
22	川本栄一郎	1969	三陸地方北部における「ゾ・ザ・ジョ・ジャ」の分布と解釈	国語学研究9	1-12	洋野町　久慈市　野田村　普代村　田野畑村　岩泉町　宮古市	《記述的研究》音韻、《地理的分布》音韻	広く沿岸北部全域に渡って音韻を記述
23	本堂寛	1970	文頭表現・文末表現に示される女性語意識一主として北奥方言について一	国語学研究(10)	36-58	九戸郡、気仙郡、久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市	《記述的研究》文末形式・文末表現、方言意識、その他、《地理的分布》文末形式・文末表現、方言意識、その他	文末表現のほか文頭の簡単表現など、東北全般を対象、女性意識に関する考察等あり
24	佐藤喜代治・加藤正信	1972	三陸地方南部の言語調査報告	日本文化研究所研究報告 別巻8・9	1-51	山田町　大槌町　釜石市　大船渡市　陸前高田市	《地理的分布》音韻、アクセント、方言集、助詞、ボイス、条件表現、文末形式・文末表現、敬語	分量多く詳細
25	加藤昭	1973	岩手県宮古市白浜の自然会話	フィールドの歩み4	117-134	宮古市	《記述的研究》談話資料	被調査者の自宅で録音した会話の書き落とし、音素表記、アクセントやイントネーションの記述あり
26	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の概観	フィールドの歩み4	49-69	久慈市、野田村、普代村、田老町、大槌町、三陸町	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川尻に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。
27	本堂寛	1977	地域社会の共通語化岩手県下閉伊郡川井村の言語変容	文芸研究84	50-59	宮古市(旧川井村)	《共通語化》音韻、アクセント、助詞、活用、ボイス、条件表現、文末形式・文末表現、敬語	旧川井村は内陸側。沿岸部からは遠い。
28	本堂寛	1977	地域社会の共通語化	文芸研究84	50-59	宮古市	《共通語化》音韻、アクセント、助動詞、語彙	
29	田中信	1981	九戸郡地方方言集	岩手方言10	3-5	久慈市	《記述的研究》方言集	説明なし
30	小松代融一	1982	うざね舎雑筆11	岩手方言12	1-12	全域	《地理的分布》方言集	分量少なめ
31	本堂寛	1982	岩手県の方言	講座方言学4　北海道東北地方の方言	238-269	全域	《記述的研究》音声、音韻、アクセント、助詞、活用、条件表現、文末形式・文末表現、敬語、その他《地理的分布》音声、音韻、アクセント、活用、条件表現、文末形式・文末表現、敬語、その他	見出しには「語彙」とあるものの今後の研究への提言にとどまる、岩手全般としながらも盛岡市・一関市が中心のため被災地との関わりは薄いか
32	森下喜一	1982	岩手アクセントの特徴と分布について　名詞を中心に	国語研究(国学院大学)45	14-39	久慈市、岩泉町、宮古市、釜石市、大船渡市	《地理的分布》アクセント	一拍・二拍・三拍名詞のアクセントの地理的分布、広く県全域を調査している
33	斎藤 孝滋	1987	「語中における子音の有声化現象」の音韻論的解釈　岩手方言を中心にして	語文論叢15	86-64	大船渡市(旧三陸町舞川)	《記述的研究》音声、音韻	盛岡、久慈、安代地域と関連して
34	斎藤 孝滋	1987	岩手方言における拍の統合現象共通語の「ル」と「リ」、「ヌ」と「ニ」に対応する拍について	日本語研究9	526-518	久慈市	《地理的分布》音韻	久慈の記述は少なめ
35	岩手県聯合教育会	1988	言語の訛謬1	岩手方言24	4-5	九戸郡	《共通語化》方言集	方言矯正
36	岩手県聯合教育会	1989	言語の訛謬2	岩手方言25	5-7	下閉伊郡	《共通語化》音韻、助詞	方言矯正
37	大西拓一郎	1989	岩手県山田町方言のアクセント	国語学研究29	84(1)-75(10)	山田町	《記述的研究》アクセント	アクセントの規則を示す
38	山浦 玄嗣	1989	はい？いいえ？ケセン語・ウンツェハァの謎	言語18-1	86-89	気仙郡(主に大船渡市)	《記述的研究》意味・用法	応答詞について。分量少ない。
39	斎藤 孝滋	1990	岩手方言における語中子音有声化現象 音環境・語彙的事情・世代の観点から	国語学研究(東北大学)30	120(57)-107(70)	大船渡市	《記述的研究》音韻	記述の主は一関市
40	大西拓一郎	1991	岩手県下閉伊郡山田町における祝言のあいさつ	方言資料叢刊：Report of Dialectology 2	40-46	山田町	《記述的研究》表現	用例多いが説明なし
41	大橋勝男	1991	日本諸方言についての記述的研究(19)岩手県下閉伊郡川井村川内方言について	新潟大学教育学部紀要人文・社会科学編32-2	215-238	宮古市(旧川井村)	《世代差》音韻、アクセント、イントネーション	詳細
42	加藤正信；村上雅孝；神戸和昭；斎藤考滋；武田拓；半沢康	1991	南部・伊達藩堺地帯における方言分布調査の報告と考察	東北大学日本文化研究所研究報告別巻28	55-85	釜石市、大船渡市	《記述的研究》音韻、意味・用法、条件表現、《地理的分布》意味・用法	浜荻など古方言集とほうげん分布との関係にも触れている
43	斎藤 孝滋	1991	岩手方言における語中子音鼻音化現象 音環境・語彙的事情・世代の観点から	語文論叢(千葉大学)19	90-78	大船渡市(旧三陸町)	《記述的研究》音韻、助詞、その他	語彙や世代差と関連して音声について述べている、調査は三段階に分けて実施
44	小松代融一	1992	岩手師範学校方言集(上)	岩手方言32	5-11	九戸郡、気仙郡	《地理的分布》方言集	説明なし

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
45	大西拓一郎	1992	三陸沿岸地域方言のアクセント語彙(1) 金田一語彙 名詞	〔東日本の音声論文編(2)〕	19-39	洋野町 久慈市 野田村 普代村 田野畑村 宮古市 山田町	《地理的分布》アクセント	調査語数多い
46	大西拓一郎	1992	岩手県宮古市愛宕方言における身体感覚を表すオノマトペ	方言資料叢刊：Report of Dialectology 2	17-20	宮古市	《記述的研究》方言集	説明少々あり
47	大西拓一郎	1992	岩手県下閉伊郡山田町方言における身体感覚を表すオノマトペ	方言資料叢刊：Report of Dialectology 2	21-25	山田町	《記述的研究》方言集	説明少々あり
48	斎藤 孝滋	1992	岩手方言における語中子音有声化・鼻音化現象 言語内的・外的要因の観点から	国語学168	124-111	大船渡市(旧三陸町)	《地理的分布》音声、方言意識、《世代差》音声、方言意識	世代別の有声化・鼻音化の傾向、有声化・鼻音化に対する意識の調査
49	斎藤 孝滋	1992	母音無声化の「広さ」と「強さ」岩手方言を中心にして	国語学研究(東北大学)31	64(39)-50(53)	久慈市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》音声	母音無声化の度合いを段階づけ
50	大西拓一郎	1993	三陸沿岸地域方言のアクセント語彙(2)金田一語彙 動詞・形容詞	〔東日本の音声 論文編3 主要都市多人数調査(札幌・市名古屋市)報告〕(科研報告書)	1-18	洋野町 久慈市 野田村 普代村 田野畑村 宮古市 山田町	《地理的分布》アクセント	調査語数多い
51	斎藤 孝滋	1993	岩手県三陸町綾里方言の音韻	東北大学文学部日本語学科論集3	37-48	大船渡市	《記述的研究》音韻	分量多い。共通語との対応も
52	大西拓一郎	1994	岩手県九戸郡種市町平内方言のアスペクト	方言資料叢刊：Report of Dialectology 2	15-18	洋野町(旧・九戸郡種市町平内)	《記述的研究》音声、音韻、テンス・アスペクト	調査結果の記述、音韻表記、アスペクトについて言及あり
53	斎藤 孝滋	1994	"岩手方言における/o'e,o'i/融合現象の動態とその要因"	〔ことばの世界 北海道方言研究会20周年記念論文集〕	176-183	大船渡市	《グロットグラム》音韻	計量的
54	山浦 玄嗣	1994	麗しきケセン語	日本語論2-1	62-64	気仙郡	《その他》『ケセン語入門』執筆にあたって	
55	大西拓一郎	1995	岩手県種市町平内方言の用言の活用	〔研究報告集16<国立国語研究所報告110>〕	57-98	洋野町(旧・九戸郡種市町平内)	《記述的研究》音韻、助詞、活用、テンス・アスペクト	青森・八戸など隣接方言との関係、通時的観点からの考察あり
56	山浦 玄嗣	1996	ケセン語複合動詞の音調規則	言語学林 1995-1996	235-253	気仙郡	《記述的研究》アクセント	用例豊富
57	斎藤 孝滋	1997	岩手方言における語中/'w/の動態要因とバリエーションの計量的推定	国語学研究(東北大学)36	(1)94-(12)83	大船渡市	《共通語化》音声、音韻、方言意識、年代差	計量的。今後の予測も
58	齋藤 孝滋	2001	岩手県久慈市方言における形容詞活用体	都大論究38	53-62	久慈市	《記述的研究》音声、活用	
59	澤村 真貴子	2001	岩手県方言区画試論	弘学大語文27	1-11	全域	《記述的研究》文法・アクセント・語彙による区画	先行研究の区画図を統合
60	齋藤 孝滋	2002	岩手県久慈市方言の音韻対応―共通語との対応を中心として	玉藻38	1-17	久慈市	《記述的研究》音韻	
61	田中 宣廣	2003	陸中宮古方言アクセントの実相	国語学 54(4)	44-59	宮古市	《記述的研究》音声、音韻、アクセント	ピッチグラムを用いている、重起伏アクセント等含む
62	斎藤 孝滋	2006	岩手方言における形容詞の特徴：活用体系と音声文法の視点から	フェリス女学院大学文学部紀要	61-68	久慈市	《記述的研究》音声、活用	形容詞の活用・語幹と音声との関係について、地理的なことには多く触れていない
63	作田将三郎	2006	東北地方における<雷>の地方語史	文化69-3・4(東北大学文学会)	58-324	宮古市、大槌町、陸前高田市	《記述的研究》その他、《地理的分布》語彙	
64	山浦 玄嗣	2008	20年目のウンツェハァ―岩手県気仙地方における対否定疑問文応答形式の経時的変化	日本方言研究会研究発表会発表原稿集	69-76	気仙郡	《世代差》文法(応答詞)	
65	田中 宣廣	2009	地域言語の理解法―岩手県域諸方言の例から	岩手県立大学宮古短期大学部研究紀要 20	1-10	宮古市	《記述的研究》音韻、買い物時のやりとり	主旨は方言の正しい理解のための方法。宮古方言は例であり記述少ない
66	小島聡子	2010	研究ノート 岩手県で用いられる特徴的な言葉について	岩手大学人文社会学部	69-86	全域、久慈市、野田村、岩泉町、釜石市、宮古市、山田町、大槌町、大船渡市	《記述的研究》記号の読み方、「特にも」の用法	「はこいち」と読むか「しかくいち」と読むか、「特にも」用法・用例

⑥ 岩手県文献リスト（市町村史）

No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	関口喜多路	1980	岩泉地方史　下巻	関口喜多路	603-749	岩泉町	《記述的研究》方言集	第十七章　岩泉地方の方言訛語
2	三陸町史編集委員会	1988	三陸町史　第五巻　民俗一般編	三陸町	569-616	三陸町	《記述的研究》方言集	『郷土教育資料（紀元二千六百年記念事業、綾里小学校編）』を中心に、『気仙方言誌（金野静一・菊池武人著）』・『岩手気仙の方言（菊池武人著）』・『気仙ことば（佐藤文治著）』・『気仙方言辞典（金野菊三郎著）』を参照したもの。菊池武人執筆。
3	三陸町史編集委員会	1990	三陸町史　第一巻　自然・考古編	三陸町史刊行委員会	49-53	三陸町	《記述的研究》その他	魚の名前
4	田野畑村芸術文化協会	1994	新たのはた風土記	田野畑村芸術文化協会	256-262	田野畑村	《記述的研究》意味・用法、その他	田野畑方言と京言葉・エゾ語との関わりについて、地名由来
5	陸前高田市史編集委員会	1994	陸前高田市史　第一巻　自然編	陸前高田市	375-388	陸前高田市	《記述的研究》方言集	『新岩手風土記（瀬川経郎著）』を参考にし、地域の古老からも採取したもの。
6	陸前高田市史編集委員会	1996	陸前高田市史　第六巻　民俗編下	陸前高田市		陸前高田市		
7	普代村郷土史編纂委員会	2003	普代村郷土史	岩手県普代村	1072-1116	普代村	《記述的研究》意味・用法	
8	北上町史編さん委員会	2004	北上町史 自然生活編	北上町	572-633	北上町	《記述的研究》音韻、文法概説、方言集	第2節 方言（第1節伝説・昔話・民謡 p.517-571）

⑦ 宮城県文献リスト（書籍）

No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	猪苗代兼郁	1720	仙台言葉以呂波寄	猪苗代兼郁				
2	小倉博	1827	標準語励行と方言掃	読売宮城				
3	贅庵	1827	方言達用抄	贅庵				
4	大里源右衛門（桜田周輔？）	江戸末期	仙台方言					『近世古方言書索引』村上雅孝ほか編、村上雅孝、1983に収められている。本書は国研にあり
5		江戸末期	浜荻					
6	伊勢斎助	1916	増訂仙臺史傳;仙臺方言考	裳華房		仙台	《記述的研究》意味・用法	
7	土井八枝	1919	仙台方言集	土井八枝		仙台	《記述的研究》方言集、文法概説	
8	仙台税務監督局	1920	東北方言集	東北印刷株式会社出版部		宮城（東北）	《記述的研究》方言集	
9	仙台叢書刊行会	1925	仙台叢書第八巻(「仙台言葉以呂波寄」「方言達用抄」「仙台方言」所収)	仙台叢書刊行会	462	仙台	《記述的研究》方言集	
10	弁天丸孝	1932	石の巻弁　別冊	郷土社書房		石巻市	《記述的研究》方言集	
11	弁天丸孝	1932	石巻弁　語彙篇	郷土社書房		石巻市	《記述的研究》方言集	
12	小倉進平	1932	仙台方言音韻考(言語誌叢刊)	刀江書院	454	仙台	《記述的研究》音韻	
13	真山彬	1936	仙台方言考(言語誌叢刊)	刀江書院				
14	土井八枝	1938	仙台の方言	春陽堂	341	仙台	《記述的研究》方言集	
15	国学院大学民俗学研究会	1940	民俗採訪　三重・宮城					
16	佐藤喜代治	1950	宮城県方言の概観(M)	国研報告書	150	本吉郡小泉村（気仙沼市）、本吉郡志津川町（南三陸町）、桃生郡雄勝村（石巻市）、名取郡千貫村（名取市）、亘理郡新浜町（亘理町）、亘理郡坂元村（山元町）29地点	《地理的分布》音声、音韻、意味・用法、助詞、活用、文末形式・文末表現	筆者自筆の原稿。
17	佐藤喜代治	1951	宮城県方言音韻の特徴形の実態(M)	国研報告書	64	宮城郡利府村（利府町）、加美郡宮崎村、柴田郡村田村	《記述的研究》音声、音韻	筆者自筆の原稿。
18	河北新報社	1951	宮城県百科辞典	河北新報社	4(p.1182−1185)	宮城（東北）	《記述的研究》意味・用法	
19	郡教育会	1951	栗原方言及手鞠唄	郡教育会				×
20	佐藤喜代治	1951	仙台本草(M)	国研報告書	96	仙台	《記述的研究》方言集	『仙台本草』の中から、「仙台方言の記載されているもののみをぬきだし」たもの。
21	田村寂秋	1951	仙台方言集	通信文化の会		仙台市	《記述的研究》音韻、方言集	
22	佐藤喜代治	1956	宮城	NHK国語講座方言の旅				×
23	藤原勉	1960	方言	宮城県史刊行会		東北・宮城(一部各地域について記述)	《記述的研究》アクセント、イントネーション	
24	石川鈴子	1966	自伝的仙台弁	審美社		仙台・福島	《記述的研究》方言集	
25	高橋富雄	1969	方言〈宮城県の歴史付録〉	山川出版社		仙台	《記述的研究》意味・用法	
26	浮田章一	1974	宮城県牡鹿半島における言語調査	浮田章一		牡鹿町（鮎川浜、十八成	《記述的研究》意味・用法	
27	浮田章一	1975	宮城県牡鹿半島における言語調査	浮田章一	7	牡鹿町（鮎川浜、十八成	《記述的研究》意味・用法	
28	浮田章一	1975	宮城県牡鹿半島における言語調査　鮎川・網地島・金華山	浮田ゼミ	8	牡鹿半島（牡鹿町）	《記述的研究》意味・用法	
29	土井八枝	1975	仙台の方言(再刊)(原本は1938年刊)	国書刊行会	341	仙台市全域		
30	仙台郵政監察局	1975	東北方言集(再刊)(原本は1920年8月刊)	国書刊行会		気仙沼地方	《記述的研究》方言集	
31	北条忠雄	1975	東北南部と関東の方言	方言と標準語−日本語方言学概説50−1		南奥方言(岩手南部・宮城・福島)	《世代差》音韻、アクセント、イントネーション、意味・用法、助詞、活用、敬語	
32	浮田章一ほか	1976	宮城県牡鹿町と女川町における言語調査　鮎川浜・江島	女子聖学院短大浮田ゼミ	32	女川町	《記述的研究》意味・用法	
33	女子聖学院短大浮田ゼミ	1977	宮城県女川町出島における言語調査1 出	女子聖学院短大浮田ゼミ	12	女川町	《記述的研究》意味・用法	
34	女子聖学院短大浮田ゼミ	1978	宮城県牡鹿郡女川町における二度目の言語調査 出島・寺間	女子聖学院短大浮田ゼミ	6	女川町	《記述的研究》意味・用法	
35	佐藤忠雄	1981	仙台言攷 音韻と語法	渓声出版		宮城県の中、仙台以南の地方	《記述的研究》音韻、テンス・アスペクト	
36	浅野建二	1981	仙台方言辞典	東京堂出版		旧仙台領一般	《記述的研究》方言集	

No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
37	佐藤武義	1983	宮城県方言の歴史と国語史	宮城の研究7民族方言建築史編(宝文館)		宮城県一般	《記述的研究》意味・用法	
38	西条弥一郎	1984	南三陸地方の方言	西条弥一郎	70	北上町(石巻市)	《記述的研究》方言集	
39	仙台文化出版社	1986	仙台弁句辞典(せんだい新書1)	仙台文化出版社		仙台市	《記述的研究》その他	
40	多賀城市史編纂委員会	1986	多賀城市史3民族・文学	多賀城市	205	多賀城市	《記述的研究》音韻、アクセント、意味・用法、助詞、活用、文末形式・文末表現、敬語、《世代差》意味・用法、《共通語化》意味・用法	
41	石巻市史編さん委員会	1988	石巻の歴史3民俗・生活編	石巻市	43	石巻市	《記述的研究》音韻、アクセント、方言集、助詞、文末形式・文末表現、敬語、《地理的分布》方言区画	
42	西村源太郎	1989	仙台原町方言集(せんでいはらまづほおげんすう)	西村源太郎		原町(旧小田原、旧南日、旧苦竹)	《記述的研究》方言集	
43	田村正夫	1990	滅び行く方言　岩沼地方編	田村正夫		岩沼町	《記述的研究》方言集	
44	渋谷信義	1992	ケンケン鳥お背戸のズサぬ木　明治初期仙台亘理から伊達開拓移住者達の会話	北海道新聞社出版局		亘理町	《記述的研究》方言集	
45	山浦玄嗣	1992	みんなのケセン語1	共和印刷企画センター	102	気仙沼市	《記述的研究》音声、音韻、アクセント、その他	著者が方言の勉強会のために自作したテキスト。独特の表記とカタカナなどを用いて記されており、内容は充実している。非常に詳細な記述。
46	山浦玄嗣	1992	みんなのケセン語2	共和印刷企画センター	102	気仙沼市	《記述的研究》音声、音韻、イントネーション、文法概説、助詞、活用、テンス、条件表現	1に同じ。
47	仙台文化出版	1993	続仙台弁句辞典	仙台文化出版社	177	仙台市	《記述的研究》その他	
48	田村昭	1993	仙台方言集付・東北の方言10版改訂	宝文堂	84	仙台	《記述的研究》方言集	
49	菅原 孝雄	1994	新釈三陸のことわざ	三陸新報社	194	三陸地方		
50	菊池武人	1995	近世仙台方言書翻刻編、続翻刻編	明治書院		旧仙台藩	《記述的研究》方言集	『濱萩』など、近世の方言書の翻刻
51	菊池武人	1995	近世仙台方言書研究編	明治書院		旧仙台藩(翻刻版の検討)	《記述的研究》方言集	方言と方言集ができた当時の時代背景
52	小山正平	1997	わたくしの音語論 三陸地方の古代史を読み解く	私家版	301	三陸地方(気仙沼市)	《記述的研究》方言集	方言語意を音節レベルに語源解釈する。きわめて独特な見解を展開。
53	半沢康;小林初夫;武田拓	1998	宮城・福島沿岸地域におけるグロットグラム調査報告	科研報告書	49	亘理町、山元町	《グロットグラム》音韻、語彙、アスペクト、活用、助詞、待遇表現、敬語	
54	仙台市史編さん委員会	1998	音でたずねる仙台の民俗　仙台市史 特別編6 民俗 付録	仙台市	14	仙台市	《記述的研究》談話資料	小さい冊子とCDのセット。CDに方言解説と挨拶場面など10例の会話が収録されている。その他、CDには民謡、昔話も収録。
55	佐々木徳夫	1999	話すてけらしぇ仙台弁	無明舎出版		仙台市全域	《記述的研究》談話資料	
56	小林隆	2000	宮城県仙台市方言の研究	東北大学大学院文学研究科国語学研究室	156	仙台市	《記述的研究》イントネーション、テンス・アスペクト、《地理的分布》テンス・アスペクト、文末形式・文末表現、語史、《世代差》音韻、アクセント、意味・用法、テンス・アスペクト、文末形式・文末表現、方言意識、敬語	音韻、テンス・アスペクト:性差
57	佐藤武義;遠藤仁;樋渡登解題	2000	御国通辞;仙台言葉以呂波寄;仙台言葉;方言達用抄;仙台方言;荘内浜荻;荘内方音攷	港の人	582	仙台	《記述的研究》方言集	
58	山県浩	2001	近世方言書類の上方語『仙台言葉以呂波寄』『燈心野語』を中心に	筑紫語学論叢:奥村三雄博士追悼記念論文集		全日本各地(大阪、京都、仙台など)	《記述的研究》意味・用法	方言書物12冊の江戸語京都語との比較
59	後藤彰三	2001	胸ば張って仙台弁 ぬくもり伝えるふるさとことば	宝文堂		仙台市全域	《記述的研究》音韻、テンス・アスペクト、《世代差》意味・用法、《共通語化》意味・用法	民俗語誌も含む
60	小林隆;竹田晃子;玉懸元;佐藤祐希子	2003	宮城県石巻市方言の研究	東北大学国語学研究室	214	石巻市	《記述的研究》音韻、アクセント、助詞、テンス・アスペクト、文末形式・文末表現、《地理的分布》語史、《世代差》音韻、意味・用法、テンス・アスペクト、文末形式・文末表現、《グロットグラム》アクセント、意味・用法、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現	気付かない方言、新方言
61	井上史雄;玉井宏児、遣水兼貴編	2003	東北・北海道方言の地理的・年齢的分布(THグロットグラム)	東京外国語大学	196	松島町	《グロットグラム》語彙、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、その他	一部被災地該当。
62	加藤正信ほか編	2004	関東・東北境界域言語地図　常磐線・磐越東線グロットグラム	いわき明星大学人文学部加藤正信研究室	379	仙台市、名取市、亘理町、山元町	《グロットグラム》音韻、アクセント、語彙、助詞、活用、テンス/アスペクト、条件表現、方言意識	前半は福島浜通、中南部～栃木・茨城県北部の言語地図。後半はグロットグラム。
63	菅原孝雄	2006	けせんぬま方言アラカルト	三陸新報社	172	気仙沼市	《記述的研究》方言集	
64	芦立光之	2006	気仙沼　お国ことば句集	開明書院	179	気仙沼市	《記述的研究》その他	

⑧ 宮城県文献リスト（論文）

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
1	研亭主人	1899	東京仙台方言くらべ拾遺	風俗画報196	12-13	仙台	《記述的研究》意味・用法	
2	馬場生	1899	東京仙台方言くらべ	風俗画報194	17-18	仙台	《記述的研究》意味・用法	
3	研亭主人	1900	東京と仙台くらべ	風俗画報212				
4	小倉進平	1910	仙台方言音域組織	国学院雑誌16-3	不明	仙台市内	《記述的研究》音韻	
5	あしのまうや	1911	宮城方言抄	風俗画報419	18-20	宮城（東北）	《記述的研究》意味・用法	
6	蘆の円屋	1915	仙台方言	風俗画報471	31	仙台	《記述的研究》意味・用法	
7	青葉山時鳥	1919-1934	仙台の方音と方言	教育	不明			
8	真山青果	1932	仙台方言雑考（一）	仙台郷土研究2-4	24-25	仙台	《記述的研究》方言集	
9	真山青果	1932	仙台方言雑考（二）	仙台郷土研究2-5	8-9	仙台	《記述的研究》方言集	
10	真山青果	1932	仙台方言雑考（三）	仙台郷土研究2-6	16-17	仙台	《記述的研究》方言集	
11	真山青果	1932	仙台方言雑考（四）	仙台郷土研究2-7	22	仙台	《記述的研究》方言集	
12	真山青果	1932	仙台方言雑考（五）	仙台郷土研究2-8	14-15	仙台	《記述的研究》方言集	
13	真山青果	1932	仙台方言雑考（六）	仙台郷土研究2-9	18-19	仙台	《記述的研究》方言集	
14	小林英夫	1932	仙台方言音韻論試作	方言2-11	13-55	仙台市	《記述的研究》音韻	
15		1932	仙台方言座談会概況	仙台郷土研究2-2	31-34	仙台	《記述的研究》方言集	
16	中市謙三	1933	東北方言の特殊音韻	国語教育18-7	80-83	仙台市	《記述的研究》音韻	
17	菊沢季生	1934	宮城方言文法の一斑	国語研究2-4		仙北・仙南・石巻、牡鹿、登米・亘理荒浜地区・白石・角田	《記述的研究》文法概説	
18	燕々軒・荒砥白翁	1935	仙台方言資料「俳諧夷艸」	国語研究3-12		仙台？		「俳諧夷艸」中に出てくる方言の意味について記述。本論文の「仙臺」と現在の「仙台」の区分が同じか不明。
19	菅野蔵治	1935	仙南地方の家族呼称	方言5-5	27-30	仙南地方（名取・柴田・伊具・刈田）	《記述的研究》音韻、方言集	家族呼称とその意味について。方言集とまではいかない
20	猪狩幸之助編，小倉進平	1935	宮城県方言考	方言5-6	6-35	宮城県全般	《記述的研究》方言集	
21	真山彬	1936	仙台方言考	宮城県人1-2				
22	倉田一郎	1937	陸前荒浜漁村語彙	方言7-9	33-46	仙台市若林区	《記述的研究》方言集	
23	カーロー	1941	日本古風土記に現れた方言研究	仙台郷土研究8-11	10-12	不明		
24	宮良当壮	1941	宮城岩手両県方言調査小報	方言研究3	61-67	亘理町、仙台市、石巻市、南三陸町（志津川）	《記述的研究》《地理的分布》音韻	記述少ない
25	土井八枝	1941	仙台弁探求の動機	朝日宮城				
26	三原良吉	1941-3	仙台語彙（一）	仙台郷土研究10-4		仙台市	《記述的研究》方言集	
27	三原良吉	1941-4	仙台語彙（二）	仙台郷土研究10-5		仙台市	《記述的研究》方言集	
28	三原良吉	1941-5	仙台語彙（三）	仙台郷土研究10-6		仙台市	《記述的研究》方言集	
29	三原良吉	1941-6	仙台語彙（四）	仙台郷土研究10-7		仙台市	《記述的研究》方言集	
30	三原良吉	1941-7	仙台語彙（五）	仙台郷土研究11-3		仙台市	《記述的研究》方言集	
31	斉藤義七郎	1942-10・11	真山青果氏「仙台方言書目」引用書目索引	国語研究（国語学研究会）10-9・10		仙台	その他	真山青果のまとめた東北方言（語彙）がどのような書物から引用されているかについて記述。
32	菊沢季生	1950	方言の旅…東北地方南部	宮城学院女子大学新聞33	2	東北	《記述的研究》音声、音韻、意味・用法、助詞、文末形式・文末表現	
33	菊沢季生	1950	方言の旅(続)	宮城学院女子大学新聞33	4	東北	《記述的研究》音声、音韻、意味・用法、助詞、文末形式・文末表現	
34	堀籠敬蔵	1951	仙南海浜地方の方言における接頭語と接尾語	教育宮城1-4				
35	浅野健二	1953	仙台俚言考(上-特に江戸時代語との関渉について-	文芸研究16	55-64	仙台	《記述的研究》文献中の語彙について記述、文献調査	先行研究・文献をもとに記述。
36	浅野健二	1954	仙台俚言考(下)-特に江戸時代語との関渉について-	文芸研究14	53-61	仙台	《記述的研究》文献中の語彙について記述、文献調査	
37	横山辰次	1955	仙台ことば	言語生活51		仙台		
38	小林好日	1956	仙台方言集「浜荻」について	国語研究4		仙台市	《記述的研究》意味・用法	
39	岡村昭	1956	仙台方言の「あらして」について	言語生活57	75	仙台	《記述的研究》意味・用法	
40	佐藤喜代治	1956	北海道・奥羽地方＠宮城	NHK国語講座 方言の旅	31-35	宮城	《記述的研究》音韻、文法概説、語彙	海岸地域として牡鹿半島の語も少しある。
41	鈴木　仁	1958	三陸女性の感動詞	言語生活86	75	気仙沼市	《記述的研究》感動詞	
42	平山輝男	1959	仙台方言のアクセント体系とその性格	音声学会会報100	27-30	仙台市北部	《記述的研究》アクセント	
43	伊藤裕	1960	仙台ことばと横浜ことば	ともしび9				×

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
44	千葉徳二	1961	東北弁と音楽教育—言語形成期の子供を対象として—	言語生活113		仙台市若林区南材木町、仙台市青葉区立町	《記述的研究》教育法	
45	菊沢季生	1961	宮城県方言資料文献目録	宮城学院女子大学研究論文集18		宮城県		
46	佐藤亮一	1963	宮城県における多型アクセントの南限-主として二音節名詞について-	文芸研究45	16-29	仙台市、石巻市、松島町、	《記述的研究》アクセント、イントネーション、《地理的分布》アクセント、イントネーション	
47	村山七郎	1963	ア・タターリノフの「レクシコン」の東北方言について-オ・ペ・ペトロワさんに与える-	国語学52	64-77	東北方言全般	《記述的研究》音韻、意味・用法	
48	佐藤亮一	1966	宮城県北部における三音節名詞のアクセント	国語学研究(国学院大学)6	16-29	気仙沼市・石巻市・登米市・栗原市・遠田郡・志田郡・宮城郡・玉造郡・加美郡・黒川郡・仙台市	《世代差》アクセント	
49	加藤正信	1967	動詞語尾における連母音アウ・オウの音訛-宮城県方言を中心にして-	国語学研究(国学院大学)7	197-208	栗原郡・気仙沼市・登米郡・古川市・志田郡・加美町・石巻市・仙台市・牡鹿郡・玉造郡・塩竈市・七ヶ浜町・柴田郡・名取郡・宮城郡・本吉郡	《記述的研究》音声、音韻、活用、ボイス、テンス・アスペクト、《地理的分布》音声、音韻	
50	佐藤孝	1967	談話室@アルとイル	言語生活186		仙台・阿武隈川河口付近	《記述的研究》意味・用法	分量は少なめ
51	佐藤亮一	1967	アクセントの「ゆれ」の実態—宮城県北部のアクセントについて—	日本方言研究会第4回発表原稿集	18-30	気仙沼市、南三陸町、石巻市、女川町、東松島市、松島町、仙台市	《地理的研究》アクセント	
52	藤原与一	1967	東北方言「文末詞」の一研究 “山形弁”“宮城弁”について	方言研究年報10(広島大学方言研究会)	57-72	松島町	《記述的研究》終助詞	
53	佐藤亮一	1968	宮城県北部におけるアクセントの一側面—語単独の相と助詞を付けたときの相との違いに関して—	聖和7	69-95	気仙沼市、本吉郡、登米郡、石巻市、栗原郡、玉造郡、桃生群、松島町、黒川群、仙台市北山、	《地理的分布》アクセント	
54	太田真喜子;但野きよ江	1968	仙台方言のイントネーションについて	日本文学ノート3		仙台・牡鹿・丸森	《記述的研究》イントネーション	
55	熊坂津恵子	1969	仙台の方言集に関する一考察	日本文学ノート4		仙台		
56	佐藤喜代治;加藤正信	1972	三陸地方南部の言語調査報告	日本文化研究所研究報告(東北大学)別巻8、9	116-166	気仙沼市鹿折、本吉郡唐桑町、	《記述的研究》テンス・アスペクト、条件表現、敬語、《地理的分布》音韻、アクセント、言語地図、テンス・アスペクト、条件表現、敬語	
57	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の外観	フィールドの歩み4	49-69	唐桑町、牡鹿町、塩竈市、亘理町	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川尻に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。
58	佐藤忠雄	1974	仙台方言の音節とその用例	音声学会会報146	11-13	仙台市	《記述的研究》音節	
59	佐藤忠雄	1975	仙台方言の母音	音声学会会報148	15-21	仙台市	《記述的研究》音韻	
60	加藤正信	1976	江戸時代以降の仙台方言語史-転訛を中心として-	佐藤喜代治教授退官記念国語学論集	603-624	仙台市を中心に宮城県全域	《地理的分布》その他(語史)	
61	浮田ゼミ	1979	宮城県出島における言語調査 第2回	緑聖文芸10	12-16	宮城県出島(女川町)	《記述的研究》談話資料	調査対象者に文章を読んでもらったもの?
62	加藤正信	1981	あいさつお国めぐり(3)仙台の港	言語生活351	90-91	仙台・宮城県の大部分	《記述的研究》方言集	あいさつについて。方言集とまではいかないが、どのような言葉が使われているかについて記述されている
63	加藤正信;佐藤和之;小林隆	1982	宮城県北地方の方言調査報告	日本文化研究所研究報告(東北大学)別巻19	138-111(左1-28)	宮城県北地方20地点(桃生郡、牡鹿郡、登米郡、本吉郡、遠田郡、栗原郡、志田郡、玉造郡、加美郡のなかで20地点)	《記述的研究》音韻、意味・用法、助詞、文末形式・文末表現、敬語	
64	斎藤友季子	1985	国学院大学図書館蔵「奥州仙台こと葉いろは寄」について考察と翻刻	国学院雑誌86-7		仙台		

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
65	黄鴻信	1985	学校における待遇表現の調査研究仙台市の場合	文芸研究(日本文芸研究会)108	52-63	仙台市	《記述的研究》敬語	
66	三宅民夫	1987	各地のねぎらいのことば(7)うざねはいたね(宮城県唐桑町)	言語生活428	81	唐桑町(気仙沼市)	《記述的研究》意味・用法	
67	大西拓一郎	1987	仙台市方言における2種類の尻上がり音調について	国語学研究(東北大学)27	120-122	仙台市	《記述的研究》イントネーション	
68	大西拓一郎	1989	「宮城県北部方言の名詞のアクセント語彙」	日本文化研究所報告別巻(東北大	19-38	宮城県北部(栗原郡築館	《記述的研究》アクセント	
69	大西拓一郎	1989	宮城県志津川町方言の名詞のアクセント 音節単位によるモーラ方言の分析	国語学158	68-81	志津川町(南三陸町)	《記述的研究》アクセント	
70	三沢奈緒美	1990	宮城県南部の方言区画 —語彙を中心とした考察—	日本文学ノート(宮城学院女子大学)25	75-89	刈田郡(七ヶ宿町、蔵王町、白石市)、伊具郡(角田市、丸森町)、亘理郡(亘理町、山元町)	《地理的分布》意味・用法	
71	大西拓一郎	1990	宮城県志津川町方言の用言のアクセント動詞の変化形を中心に	日本文化研究所研究報告別巻27(東北文化研究室紀要	15-40	本吉郡志津川町(南三陸町)	《記述的研究》アクセント	
72	大西拓一郎	1991	宮城県気仙沼市方言の動詞のアクセント	東日本の音声論文編(1)	17-24	気仙沼市階上地区	《記述的研究》アクセント	
73	大西拓一郎	1992	方言アクセントの現在仙台市方言におけるアクセントの獲得を中心に	日本語学11-10	98-113	仙台市	《記述的研究》アクセント	
74	遠藤仁;松本宙	1994	宮城方言の言語地理学的研究	宮城教育大学所蔵資料による宮城県を中心とした教育・言語・文芸の研究	78-63(左1-16)	本吉郡32地点(新月村、唐桑町、気仙沼町、大島村、階上村、小泉村、入谷村、志津川町、大谷村、歌津村、戸倉村)、牡鹿郡15地点(石巻市、荻浜村大原町、鮎川村、女川町)、亘理郡6地点(逢隈村、亘理町、荒浜村、吉田村)、栗原郡26地点	《地理的分布》その他(語史)	宮城教育大学付属図書館に「旧宮城師範資料」として蔵せられていた『宮城県下方言調査資料 その1(社会・生活関係の部)』『宮城県下方言調査資料 その2(雑載・文法関係の部)』を使用。「この調査の目的・調査票および被調査者については不明であるが、(中略)昭和8年に生徒自らの手によって調査がなされたものと推定される」。
75	小林隆	1994	東北方言における格助詞「サ」の分布と歴史	東北大学文学部研究年報44	218-244	宮城県全般	《記述的研究》文法概説、テンス・アスペクト、《地理的分布》文法概説、ボイス、テンス・アスペクト、《世代差》文法概説、ボイス、テンス・アスペクト	
76	小林隆	1995	変容する日本の方言-仙台市 住民意識に見る方言志向・共通語志向	言語24-12	34-47	仙台市	《記述的研究》方言意識、《地理的分布》方言意識、《世代差》方言意識	
77	大西拓一郎	1995	仙台市多人数音調調査の資料一覧	東日本の音声論文編4主要都市多人数調査(弘前市・仙台市)報告	41-69	仙台市	《記述的研究》アクセント、アクセント資料一覧	
78	半沢康	1995	仙台市におけるランダム配列読み上げ調査の調査結果報告	東日本の音声論文編4主要都市多人数調査(弘前市・仙台市)報告	31-40	仙台市	《記述的研究》アクセント、《世代差》アクセント	
79	李範錫	1997	無型アクセント方言のイントネーション—平坦な音調の形成要因について—	言語科学論集(東北大学)1	123-134	仙台市	《記述的研究》音声、イントネーション	
80	李範錫	1997	仙台無型アクセント方言話者におけるイントネーションとフォーカス	国語学研究(東北大学)36	74-82	仙台市	《記述的研究》イントネーション、談話分析	
81	大橋 純一	1997	宮城県山元町方言における語中・尾カ行子音の有声化・半有声化現象について—多人数話者の場面差および音意識の面から—	国語学研究(東北大学)36	63-72	山元町	《記述的研究》音声、イントネーション、談話分析、《グロットグラム》音声、イントネーション、談話分析	
82	大橋純一	1997	東北方言における/ki/の地理的・年代的諸相と展開 /k/子音と/i/母音との関連性に着目して	言語科学論集(東北大学)1	15-26	亘理郡山元町	《記述的研究》音声、音韻、《地理的分布》音声、音韻、《世代差》音声、音韻、《グロットグラム》音声、音韻	
83	小林隆;竹田晃子;玉懸元;佐藤祐希子	1998	宮城県仙台市方言の記述的調査報告	東北文化研究室紀要40	57-75	仙台市	《記述的研究》音声、イントネーション、テンス・アスペクト、表現	

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
84	木幡弓	1999	宮城県気仙沼市方言と秋田県由利方言からみた「の」の一考察	言語科学研究<神田外語大学大学院紀要>5	31-44	気仙沼市	《記述的研究》助詞	
85	金田弘	1999	仙台藩儒松本靖斎・桜田簡斎とその言語	近代語研究10	71-85	仙台市	《記述的研究》音韻、アクセント	
86	玉懸元	1999	仙台市方言の「べー」の用法	言語科学論集(東北大学)3	37-48	仙台市	《記述的研究》助詞、テンス・アスペクト、文末形式・文末表現	
87	李範錫	1999	無型アクセント方言話者における文イントネーションの標準語化—仙台市方言を例として—	国語学197	131-142	仙台市	《記述的研究》音声、アクセント、イントネーション、《グロットグラム》音声、アクセント、イントネーション、《共通語化》アクセント、イントネーション	
88	李範錫	1999	無型アクセント方言におけるフォーカスと韻律的特徴との関連について—仙台市方言を例として—	国語学研究(東北大学)38	77-92	仙台市	《記述的研究》イントネーション、《世代差》イントネーション	
89	半沢康	1999	東北地方の地域方言と社会方言	日本語学18-13	176-185	福島県北部(相馬地方)から宮城県南部にかけて	《グロットグラム》音韻、テンス・アスペクト	
90	飯間明日香	2000	現代社会における方言意識　仙台方言地域の高校生を中心として	宮城学院女子大学大学院人文学会誌1	72-80			
91	小林隆	2000	仙台市方言の文末形式「ケ」	語から文章へ		仙台市全域	《記述的研究》文末形式・文末表現	
92	小林隆;竹田晃子;玉懸元;佐藤祐希子	2001	宮城県石巻市方言の記述的調査報告	東北文化研究室紀要43	59-75	石巻市	《記述的研究》助詞、テンス・アスペクト、表現	
93	玉懸元	2001	宮城県仙台市方言の終助詞「ッチャ」の用法	国語学205	30-43	仙台市	《記述的研究》文末形式・文末表現	
94	ボンダレンコ Н.Л.	2001	Н.Л.レザノフの日本語辞典における仙台方言の特徴	東北アジア研究(東北大学)5	27-45	仙台市	《記述的研究》方言集	
95	大橋純一	2001	東北方言におけるガ行鼻音の動向	文芸研究(日本文芸研究会)151	97-106	亘理郡山元町	《地理的分布》音韻、アクセント	
96	玉懸元	2002	仙台市方言の「べー」の用法(2)「推量」「確認」「確認要求」の用法をめぐって	国語学研究(東北大学)41	44-55	仙台市	《記述的研究》文末形式・文末表現	
97	高橋ゆか	2003	接尾語「コ」の性格　宮城県石巻市の場合	日本文学ノート(宮城学院女子大学日本文学会)38	64-71	石巻市	《記述的研究》文法概説	
98	琴鍾愛	2003	仙台市方言における談話展開の方法—説明的場面で使用される談話標識から見る	文芸研究155	58-71	仙台市	《記述的研究》談話分析	
99	佐藤祐希子	2003	「気づかない方言」の意味論的考察:仙台市における程度副詞的な「イキナリ」	國語學212	32-45	仙台市	《記述的研究》文法概説、テンス・アスペクト、方言意識	
100	玉懸元	2003	仙台市方言における格助詞相当形式「ドゴ」の用法(国語学会2002年度秋季大会研究発表会発表要旨)	國語學213	124-125	仙台市	《記述的研究》助詞	
101	作田将三郎	2003	宮城県における<糠>の地方語史	言語科学論集(東北大学文学部言語科学専攻編)7	59-70	宮城県全般(志津川・中田町・迫町・南方町・中新田町・河北町・石巻市・涌谷町・鹿島台町・塩竈市・宮城町・仙台市・名取市・角田市・蔵王町・白石市・丸森町	《地理的分布》語史	
102	佐藤祐希子	2004	東北方言の「ナゲル」の形成に関する一考察　宮城県石巻市方言の分析を通して	文芸研究　文芸・言語・思想(日本文芸研究会)158	32-44	石巻市	《記述的研究》文法概説	
103	琴鍾愛	2004	仙台方言における談話展開の方法の世代差—談話標識の出現傾向から見る—	東北文化研究室紀要46	43-59	仙台市	《世代差》談話分析、談話資料(ただし少ない)	談話標識の出現傾向についての分析

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
104	琴鍾愛	2004	仙台市方言における談話標識の出現傾向	国語学研究(東北大学)43	333-344	仙台市	《記述的研究》談話分析、談話資料	
105	阿部貴人	2004	特集;スタイル切換え(3)——仙台方言話者のスタイル切換え	阪大社会言語学研究ノート(大阪大学大学院)6	2-15	仙台市	《記述的研究》談話分析	
106	琴鍾愛	2005	日本語方言における談話標識の出現傾向 東京方言, 大阪方言, 仙台方言の比較	日本語の研究(日本語学会)1-2	1-17	仙台	《記述的研究》談話分析	
107	琴鍾愛	2005	高校生における談話展開の方法の特徴-宮城県仙台方言を例として-	日本語學研究(韓國日本語學會)14	51-66	仙台市	《世代差》談話分析、談話資料(ただし少ない)	
108	作田将三郎	2005	宮城県における<雷>の地方語史	国語学研究(東北大学)44	41-53	宮城県	《地理的分布》語史	
109	木村悠衣	2005	「諸国方言物類称呼」研究:仙台方言についての記述を中心に(2004年度卒業論文要旨集)	札幌国語研究10-96				
110	玉懸元	2006	方言文末形式の使用実態とその背景—仙台市方言における	国語学研究(東北大学)45	48-60	仙台市	《記述的研究》文末形式・文末表現、方言意識、敬語	
111	作田将三郎	2006	東北地方における<雷>の地方語史	文化69-3・4(東北大学文学会)	58-324	気仙沼市、南三陸町、石巻市、松島町、仙台市、名取	《記述的研究》その他、《地理的分布》語彙	
112	作田将三郎	2007	庶民記録から見たカ行・タ行子音の有声化 宮城県を例に	国語学研究(東北大学大学院)46	31-44	宮城県	《記述的研究》音声、音韻	
113	斎藤佳苗	2007	宮城県における方言の社会的活用	名古屋・方言研究会会報24	47-61	宮城県全般	《記述的研究》方言集、方言意識	
114	琴鍾愛	2007	説明的場面における「ダカラ」の機能　仙台方言の高年層談話資料の分析から	日本研究(韓國外國語大學校日本研究所)33				
115	琴鍾愛	2008	談話における「ネ」の機能　仙台方言の説明的場面で使用される談話標識としての機能	日本文化學報(韓國日本文化學會)38		仙台	《世代差》談話分析	
116	川越めぐみ	2011	山形県・宮城県におけるグイラ・ポット系オノマトペについて—具体的描写性の強弱の観点から—	日本方言研究会第92回研究発表会発表原稿集	35-42	宮城県大崎市、古川市、美里町(グロットグラム)、気仙沼市	《記述的研究》オノマトペ	

⑨ 宮城県文献リスト（市町村史）

No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	気仙沼町誌編纂委員会	1953	気仙沼町誌	気仙沼町誌編纂委員会	423-456	気仙沼市	《記述的研究》方言集	第十五章民俗　一、言語 関西地方のことばとの関わりについて言及あり。
2	唐桑町史編纂委員会	1968	唐桑町史	唐桑町史編纂委員会	701-714	気仙沼市	《記述的研究》方言集	第七篇　民俗　第七章 方言
3	山元町誌編纂委員会	1971	山元町誌	山本町役場企画広報課	686-696	山元町	《記述的研究》方言集	
4	本吉郡誌編纂委員会	1973	本吉郡誌	本吉郡誌編纂委員会	846-859	気仙沼市	《記述的研究》方言集	第十三章民俗　一、言語
5	名取教育会	1973	名取郡誌　全	名取教育会	635-644	名取市	《記述的研究》方言集、意味・用法	三十四、方言俚諺
6	宮城郡利府村々誌編纂委員会	1973	利府村誌	宮城郡利府村々誌編纂委員会	741-743	利府町	《記述的研究》方言集	後編　第九章　行事と民風　八、利府地方の方言
7	石巻市史編さん委員会	1973	石巻市史　第五巻	石巻市史編さん委員会	106-144	石巻市	《記述的研究》方言集	第二十六篇　郷土色　第五章　方言
8	牡鹿郡役所	1975	牡鹿郡誌（全）	牡鹿郡役所	154-159	石巻市	《記述的研究》方言集	二、方言
9	大船渡市史編集委員会	1979	大船渡市史 第四巻	大船渡市	345-612	気仙郡、大船渡市	《記述的研究》言語行動	p.345-391俚諺、俗諺など、共通語形も多いが、一部に方言例あり。 p.531-612気仙地方の民謡や童唄について一部方言形。 p.393-529気仙地方の伝説、一部方言形。 その他、第一章、第二章にも「衣食住」や「生産・生業」に関する語彙が多少本文の中で紹介されている。
10	本吉町誌編纂委員会	1982	本吉町誌（Ⅱ）	宮城県本吉町 町長 千葉卓朗	1535-1560	気仙沼市	《記述的研究》語彙、方言集	p.1535-1545「俚諺」として本吉町内で話される諺の類について、主に共通語形式で列挙。但し一部に方言形がある。 p.1545-156「方言」として本吉町内のいわゆる俚言形を五十音順に配列。500語程度採録。 同書（Ⅰ）にも「町内の庭木」「町内に見る食用植物」「本吉町沿岸の動植物」の箇所に一部方言形や地方名として挙がっているが、数は多くない。
11	岩沼市史編纂委員会	1984	岩沼市史	岩沼市史編纂委員会	1330-1339	岩沼市	《記述的研究》方言集	第六節　岩沼の方言
12	佐々久監修 利府町誌編纂委員会編	1986	利府町誌	佐々久監修 利府町誌編纂委員会編	954-959	利府町	《記述的研究》方言集	第十七章　第二節　八、利府地方の方言
13	多賀城市史編纂委員会	1986	多賀城市史　第三巻 民俗・文学	多賀城市史編纂委員会	471-675	多賀城市	《記述的研究》音韻、文法、方言集その他 《地理的分布》語彙	多賀城市の方言
14	佐々久監修 多賀城町誌編纂委員会編	1987	多賀城町誌	佐々久監修 多賀城町誌編纂委員会編	780-820	多賀城市	《記述的研究》方言集	二、方言
15	石巻市史編さん委員会	1988	石巻の歴史　第三巻 民俗・生活編	石巻市史編さん委員会	636-771	石巻市	《記述的研究》方言集、音声、文法、待遇表現	第一章　石巻の方言 第二章　語彙集 東北地方、石巻市以外の宮城県方言についても記述あり。
16	志津川町誌編さん委員会	1989	生活の歓　志津川町誌Ⅱ	志津川町誌編さん委員会	252-257 656-661	南三陸町	《記述的研究》その他	第二章 第八章　第三節　昔話
17	桃生町史編纂委員会	1990	桃生町史　第三巻　自然・民俗編	桃生町史編纂委員会	477-499	石巻市	《記述的研究》方言集	第七章　桃生のことば
18	気仙沼市史編さん委員会	1994	気仙沼市史Ⅶ民俗・宗教編	気仙沼市史編さん委員会	284-302	気仙沼市	《記述的研究》音声、語彙、その他	第三節　方言
19	牡鹿町誌編さん委員会	2002	牡鹿町誌	牡鹿町誌編さん委員会	614-918	石巻市	《記述的研究》方言集、音声、文法	第十三編　第二章　第四節　方言 全国、東北、宮城の方言についても記述あり。

⑩ 福島県文献リスト（書籍）

No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	新妻三男	1930	相馬方言考	新妻三男	130	相馬市	《記述的研究》方言集、音韻、文法概説	すべて手書きだが情報量が多い。前半が音韻，文法などに関する概説，後半が語彙集。
2	新妻三男	1930	相馬方言考 上	新妻三男	31	相馬市	《記述的研究》音韻、文法概説	「相馬方言考」の前半部分。
3	酒井喜勝	1930	発音及ビ方言ノ矯正：本年度本校教育改善努力事項ノ三	酒井喜勝		相馬郡高平村（現南相馬市原町区）	《記述的研究》音韻、方言集	音韻、言語の記述がある。「福島県方言資料集2」に収録。
4	大田栄太郎	1930	方言集覧稿 福島県方言	廣文社	49	全県	《記述的研究》方言集	
5	小林勉	1931	相馬の方言その一	小林勉	13	相馬地方（南相馬市）	《記述的研究》方言集	著者は原町（現南相馬市）の住所。
6	武藤　要編	1931	福島縣中村町方言集	一言社	168	相馬市	《記述的研究》方言集	
7	鈴木久義編	1932	相馬方言訛語誤音韻矯正一覧	福島県立相馬高等女学校		相馬	《共通語化》音韻	方言の音韻と共通語の音韻。分量少ない。
8	新妻三男	1932	続相馬方言考（単語の部）	新妻三男		相馬	《記述的研究》方言集	相馬方言考の内容を増補したもの。著者住所は中村町（現伊達市保原）。「福島県方言資料集2」に収録。
9	柴田裕定	1934	石城地方中心ノ常磐地方ニ於ケル方言・訛語ノ研究	柴田裕定	108	常磐地方（石城中心）	《記述》音韻、方言集	音韻に関して若干記述あり。また意味変化の要因についての概説あり。「福島県方言資料集3」に収録。
10	兒玉卯一郎	1935	福島県方言辞典	岳陽堂書店	361	全県	《記述的研究》方言集	福島県の比較的大型の方言集。音韻・語法について概説するとともに，訳2/3を方言語彙が占める。浜，中，会など使用地域を明示するのが特徴。
11	岩崎敏夫	1953	相馬方言集	岩磐郷土研究会	37	相馬	《記述的研究》方言集	昔話、童謡も収載。「福島県方言資料集1」に収録。
12	香内佐一郎	1953	福島方言集	岩磐郷土研究会	32	全県	《記述的研究》方言集	p.13-26にかけて福島方言集として会話例あり。「福島県方言資料集2」に収録。
13	柴田裕定	1957	福島県常磐地区における方言の研究	福島県立内郷高等学校	138	いわき市（常磐地区）	《記述的研究》音韻、方言集	前編に「言語指導を通しての生活指導」があり、その後編（p.61以降）として方言の記述がある。かなり語数が多い。「福島県方言資料集3」に収録。
14	広島大学	1962	福島県方言における敬語	広島大学	4	全県	《地理的分布》敬語	福島県39地点及び隣接県各1地点。表現の形式をまとめた表と地図があるが、文章はほとんどない。「福島県方言資料集1」に収録。
15	大田栄太郎	1971	福島県方言（方言集覧稿第三編）	大田栄太郎（日本大学図書館）	49	全県	《記述的研究》方言集	第3編 石城郡誌等9書からの引用。地域名も語ごとに記してある。「福島県方言資料集2」に収
16	小林金次郎	1972	福島県の方言集成 方言は生きている	西沢	299	全県	《記述的研究》方言集、敬語、その他、《地理的分布》その他	語彙がほとんど。語法について少し。方言雑話もあり。分量多い。
17	新妻三男	1973	相馬方言考　改訂版	相馬郷土研究会	206	相馬	《記述的研究》音韻、語彙、方言集、助詞、活用、敬語、ボイス、テンス・アスペクト、文法その他、談話	方言集自体はそれほど多くないが、音韻、文法等の解説が充実しており、会話例も掲載されている。
18	飯豊毅一	1974	福島県北部地域の面接調査　国立国語研究所報告53　言語使用の変遷	秀英出版	388	伊達市（保原町）	《記述的研究》音韻、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、その他、《世代差》音韻、語彙、助詞、ボイス、条件表現、文法その他、敬語、待遇表現、方言意識	「Ⅱ伊達郡方言の特徴」（p.30-56）に音韻、文法の記述がある。
19	高木稲水	1975	いわき方言	いわき春秋社	246	いわき市	《記述的研究》方言集	自己の方言の内省と思われる。わらべ歌も含む。
20	新妻三男	1975	相馬方言考　補遺2	相馬郷土研究会	28	相馬	《記述的研究》方言集、その他	方言雑話と単語の追加。少し説明あり。分量多い。
21	福島県助詞師範学校	1976	福島県郷土誌	歴史図書社	26	全県	《記述的研究》音韻、意味・用法、助詞、文末形式・文末表現、敬語	

No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
22	新福島風土記刊行会	1978	新福島風土記　福島県の歴史と風土	創土社	8	全県		
23	新妻三男	1982	相馬方言をさかのぼる	相馬郷土研究会	265	相馬	《記述的研究》方言集、意味・用法、談話	民俗習慣の事例とともに、方言形の談話も少々あり。使い方やエピソードの記述あり。
24	福島郷土文化研究会代表小林金次郎	1986	誰にでもわかる福島県の方言	歴史春秋社	335	全県	《記述的研究》方言集	昔話を添えた方言語彙集。用例が各語についているところが特徴。浜通、県北、県中、県南、会津に分けて単語を記す。昔話・地名もあり。
25	草野二郎	1990	いわき市小川町地方の方言　改訂増補	草野二郎	186	いわき市	《記述的研究》方言集	挨拶ことば（14会話）あり。
26	加藤正信	1995	福島県相馬地方における方言の共通語化の実態とその社会的心理的背景	科研報告書	145	南相馬市（小高町、原町市）、相馬市	《共通語化》音声、アクセント、方言意識	世代差・共通語化についてかなり網羅的に調査してあるが、文法の記述は少ない。量は多い。
27	福島県水産試験場編	1995	福島の海産動物方言集　魚の呼び名	福島県水産試験場	103			
28	髙野　徳	1997	原町市の方言わたしたちの古里言葉	髙野　徳	81	南相馬市原町区	《記述的研究》方言集	50音順に語彙を羅列。当該地域方言と付近共通語を区別して明示してあるのが特徴的。
29	半沢康;小林初夫;武田拓	1998	宮城・福島沿岸地域におけるグロットグラム調査報告	科研報告書	49	相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町	《グロットグラム》音韻、語彙、アスペクト、活用、助詞、待遇表現、敬語	
30	阿部包昭編	1998	保原町を中心としてしょうわ一桁生まれが使った方言集　第4版	阿部包昭	89	伊達市	《記述的研究》方言集	1版：平成3年、2版：平成4年、3版：平成6年
31	ヤッチキ・ヤッペGroup	1999	いわきの方言1616（いろいろ）	東北電力いわき営業所グループ・チャレンジ活動	72	いわき市	《記述的研究》方言集	50代のメンバー7名で作成。1600以上の語。
32	井上史雄；玉井宏児、遣水兼貴編	2003	東北・北海道方言の地理的・年齢的分布（THグロットグラム）	東京外国語大学	196	伊達市	《グロットグラム》語彙、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、その他	一部被災地該当。
33	加藤正信ほか編	2004	関東・東北境界域言語地図　常磐線・磐越東線グロットグラム	いわき明星大学人文学部加藤正信研究室	379	新地町、相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市	《地理的分布》音韻、アクセント、語彙、助詞、活用、テンス/アスペクト、《グロットグラム》音韻、アクセント、語彙、助詞、活用、テンス/アスペクト、条件表現、方言意識	前半は福島浜通、中南部～栃木・茨城県北部の言語地図。後半はグロットグラム。
34	小林初夫編	2005	高平方言集	高平方言教室	52	原町市高平地区（現南相馬市原町区）	《記述的研究》方言集	説明なし。分量多い。
35	大橋純一編	2008	福島県いわき市方言の研究　関東・東北接触地域の世代別多人数調査	いわき明星大学大学院人文学研究科日本文学専攻	148	いわき市	《世代差》音韻、語彙、意味・用法、文法、方言意識	高・中・若・少男女計91名。アンケート調査。
36	田村市文化財保護審議会	2010	田村市のことば（田村市史4）	福島県田村市教育委員会	123	田村市	《記述的研究》方言集	書籍構成：方言編/民謡編/地名編。収録の方言、民謡、地名は他の文献から編集。
37	新妻三男	?	相馬方言考　補遺1	?	6	相馬	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
38	小林勉	?	相馬方言に就て（草稿）	小林勉	14	相馬	《記述的研究》方言集	「福島県方言資料集2」に収録。
39	いわき市教育委員会		いわきの方言：調査報告書					

⑪ 福島県文献リスト（論文）

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
1	吉田　巌	1915	相馬方言とアイヌ語	人類学雑誌30－1	27-29	相馬地方	《記述的研究》その他	相馬方言とアイヌ語の関わりについて述べたもの。
2	松本　繁	1932	磐城相馬の植物方言	方言2－10	782-787	磐城、相馬	《記述的研究》方言集	分量少ない。説明なし。
3	新妻三男	1932	相馬方言雑記	方言と国文学3（国語・国文学附録）	29-31	相馬地方	《記述》意味・用法、活用、音声、文末形式・文末表現	1「らん」の生存、2マヨーとマヤー、3ものして、4かぶす、5なた、6ファとフェの音、7うたて、叫声説、各節短く解説。
4	新妻三男	1934	相馬に於ける敬語助詞及び助動詞（福島県）	国語研究2－4	53-57	相馬地方	《記述的研究》敬語	敬語動詞、敬語助動詞の意味と用例。分量少ない。
5	高木稲水	1934	磐城地方方言考（一）	方言4－9	46－53	磐城地方	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
6	高木稲水	1935	磐城方言考（二）―平町近在磐崎村藤原を中心とする―	方言5－3	29－38	磐城地方	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
7	高木稲水	1935	磐城方言の接頭接尾語に就いて	方言5－9	15－19	平町磐崎村藤原（いわき市）	《記述的研究》その他	接頭語・接尾語を集めたもの。用例少ない。分量少ない。
8	児玉卯一郎	1935	岩磐方言に於ける特殊音韻現象－ヤ行ザ行相通に就いて－	方言5－4	72－75	全県	《記述的研究》音韻	ヤ行ザ行相通現象。例少ない。分量少ない。
9	高木稲水	1936	磐城方言考(三)－福島県平町近在磐崎村藤原を中心とする－	方言6－4	58－65	磐城地方	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
10	広瀬敏子	1947	磐城方言の中に見える古語	日本の言葉1-3	21-22	磐城地方	《記述的研究》語彙	エッセイ的
11	蒲生　明	1955	福島方言	民間伝承19-9	119	田村郡（田村市）	《記述的研究》意味・用法	いくつかの語の説明。分量はとても少ない。
12	柴田武	1957	方言の手帳3 ズーズー弁	放送文化12-11	54-55	伊達市（保原村）	《地理的分布》音韻	ズーズー弁中心に東北地方から北陸、出雲地方の差を見たもの。
13	佐藤喜代治	1959	福島県方言の敬語法	文化23－2	411-428	石神村（現南相馬市）、大館村（現飯舘村）、標葉町（現双葉町）、葛尾村	《記述的研究》敬語	福島方言の敬語についての概説。分量多い。
14	飯豊毅一	1962	方言の分布－推量表現「…べー」について－	相模女子大学紀要13	50-65	相馬郡相馬（相馬市）、鹿島（南相馬市鹿島区）、双葉郡津島、浪江（浪江町）、久ノ浜（いわき市）、石城郡磐城（いわき市）、勿来（いわき市）	《記述的研究》ボイス、文末形式・文末表現、《地理的分布》ボイス、文末形式・文末表現	「…べー」の概説と形式の分布。分量多い。
15	飯豊毅一	1964	福島県方言における対者尊敬表現について	国語学59	11-24	相馬郡相馬（相馬市）、鹿島（南相馬市鹿島区）、双葉郡津島、浪江（浪江町）、久ノ浜（いわき市）、石城郡磐城（いわき市）、勿来（いわき市）	《地理的分布》敬語	文末助詞による敬語の地域分布。分量多い。
16	高萩精玄	1965?	石城地方坑夫用語	石城郡誌?	778-781（46-49）	磐城地方	《記述的研究》方言集	99語の坑夫用語を掲載。方言－意味の形式。
17	言語班	1967	福島県相馬地方調査・言語編－概説、音韻的特徴、血族関係語彙など－	ほうげん3	22-201	相馬地方	《記述的研究》音韻、《地理的分布》その他	音韻の特徴と語彙の分布が中心。分量多い。
18	岩崎敏夫；秋山政一	1967	言語生活	福島県史24	379－491	全県	《記述的研究》音韻、アクセント、イントネーション、文法概説、活用、ボイス、文末形式・文末表現、《地理的分布》音韻、イントネーション、活用、文末形式・文末表現、その他	各分野について詳細に記述。県内の分布についても。分量多い。
19	飯豊毅一	1969	福島県方言における「ル」「ラル」敬語について	国文学攷49	23-35	全県	《地理的分布》敬語	
20	岩崎敏夫	1971	福島県のことば	福島の研究5		全県	《記述的研究》音韻、文法概説	各分野の概説。分量少ない。

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
21	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の外観	フィールドの歩み4	49-69	相馬市、南相馬市、浪江町、いわき市	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川尻に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。
22	飯豊毅一	1978	東北地方における方言語彙の変遷—福島県北部地域調査を中心として—	柴田武・日本方言研究会『日本方言の語彙』三省堂	389-412	伊達市(保原)	《共通語化》語彙	
23	飯豊毅一	1981	文法形式と変容—福島県北部地域方言を主例として—	『方言学論叢:藤原与一先生古希記念論集1』三省堂	129-148	伊達市(保原町)	《世代差》方言意識、《共通語化》音韻、語彙、文法	飯豊1974『言語使用の変遷』(国立国語研究所、秀英出版)に記載の福島県北部地域調査の結果を使用。地点は福島市と保原町(現伊達市)。世代差、位相差に着目。
24	菅野 宏	1982	12 福島県の方言	講座方言学4 北海道・東北地方の方言	363-398	全県	《記述的研究》音声・音韻、アクセント、文法概説、《地理的分布》音韻、語彙	
25	森下喜一	1985	いわき市の敬語表現について 特に接頭語「お」をめぐって	国語研究(国学院大学)49	99－108	いわき市平、江名	《記述的研究》敬語	敬語表現の接頭語について、語彙差・職業差・男女差・年代差から。分量多い。
26	森下喜一	1986	いわき市の敬語表現命令的表現の型を中心に	岩手医科大学教養部研究年報21	183－200	いわき市平、江名	《記述的研究》敬語	地域別、性別、年齢別の敬語表現の状況。分量多い。
27	菅野 宏	1986	福島県方言の語彙語法の分布	福島の研究5	10－59	全県	《記述的研究》音韻、アクセント、イントネーション、助詞、活用、ボイス、文末形式・文末表現、敬語、《地理的分布》音韻、助詞、活用、ボイス、文末形式・文末表現、敬語、その他	福島方言の概説。分量多い。
28	佐藤雄一	1992	東北福島県の方言(列島各地の日本語—方言録音資料紹介<特集>)—(各地録音紹介—文字化と解説)	国文学解釈と鑑賞57-7	176-168		《記述的研究》談話資料	
29	森下喜一	1993	福島方言アクセントの年齢的特徴	作新学院大学紀要文化と科学3	25-43	相馬市、いわき市	《世代差》アクセント	アクセントの年代差について。東京式と比較。分量多い。
30	加藤正信ほか	1994	福島県小高町における方言の共通語化に関する社会言語学的調査報告	東北大学日本文化研究所研究報告別巻31	80－102	小高町(南相馬市小高区)	《共通語化》音声、アクセント、その他、助詞、ボイス、方言意識	対象地域における各分野の共通語化の実態、言語意識の関わり。分量多い。
31	半沢 康	1995	伊達・中村藩境地帯の方言分布に関する調査報告	東北生活文化大学三島学園女子短期大学紀要(論文編)26	67-80	新地町、相馬市	《地理的分布》音声・音韻、語彙、文法	
32	亀田裕見	1996	福島県相馬地方の無型アクセント多人数話者における音相 基本周波数曲線の視覚的パタン分類による	東北大学日本文化研究所研究報告別巻33	80-92	小高町、原町市(どちらも現南相馬市)	《記述的研究》アクセント	一地域における多人数の無型アクセント話者の示す音相の違い。分量多い。
33	半沢康;亀田裕見	1996	方言変化に関わる社会的・心理的要因 福島県相馬地方における共通語使用に関する調査から	方言の現在	254-274	原町市、小高町(どちらも現南相馬市)	《共通語化》方言意識、その他	対象地域の共通語使用の実態とそれに関わる要因について。分量多い。
34	半沢 康	1996	福島県北部地域における多人数方言調査の報告と考察(1)	東北生活文化大学三島学園女子短期大学紀要(論文編)	57-111	伊達市、川俣町	《地理的分布》語彙、文法	多人数調査
35	半沢 康	1997	福島県北部地域における多人数方言調査の報告と考察(2)	東北生活文化大学三島学園女子短期大学紀要(論文編)28	75-86	伊達市、川俣町	《共通語化》方言意識	多人数調査
36	半沢 康	1998	方言使用と方言評価意識に関する因果分析の試み－東北地方南部高校生アンケート調査の結果から－	国語学研究37	45－56	南相馬市原町、新地町、いわき市内郷、いわき市勿来	《共通語化》方言意識	方言意識と使用の因果関係。その他の要因も少し。分量多い。
37	小野米一	2000	福島県相馬地方への旅	日本語学19－10	58-64	相馬地方	《記述的研究》アクセント、その他	著者が相馬地方を訪れた際の話。アクセントを若干。分量少ない。
38	小林初夫	2000	福島県相馬郡小高町飯崎方言の副助詞	方言資料叢刊8	49-54	小高町飯崎(現南相馬市)	《記述的研究》助詞	副助詞の用例。分量少ない。

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
39	小池壮一	2000	福島方言と共通語	国文学論輯21(国士舘大学国文学会)	169-180	全県	《記述的研究》音韻	「分かんない」について福島の新方言であるとし、福島、栃木、茨城、埼玉、東京への地域差・世代差の調査も行っている。
40	半沢　康	2001	宮城・福島太平洋沿岸地域の方言動態　常磐線沿線グロットグラム調査の結果から	言文48	1－14	新地町、相馬市、鹿島町(南相馬市)、原町市(南相馬市)、小高町(南相馬市)、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市	《グロットグラム》音韻、その他	グロットグラム調査による各分野の方言の境界の成立、移動・変化。分量多い。
41	西牧　忠	2002	夜間の交通事故から身を守るために—福島方言駆使してPR	人と車38-11	10-14	南相馬市、いわき市、相馬市、伊達市、浪江町、富岡町	その他	ラジオで交通安全指導をPRするとkに方言を使ったという紹介。一部方言談話がある。
42	本多真史	2003	平行するグロットグラム—東北本線と常磐線の比較	いわき明星大学大学院人文学研究科紀要1	77-91	浜通り	《グロットグラム》	
43	大橋純一	2004	福島県相馬市方言における語中ガ行入り渡り鼻音	国語学研究43	294-306	相馬市	《記述的研究》音声	語中ガ行入り渡り鼻音の実態について。分量は多い。
44	本多真史	2004	関東・東北接触地帯における話者の言語意識と方言使用の関わり	いわき明星大学大学院人文学研究科紀要2	58-77	浜通り	《地理的分布》方言意識	言語意識と方言使用の関係、その地理的分布。分量多い。
45	半沢　康	2005	東北地方南部若年層における非標準語形使用の要因分析　心理的特性とのかかわり	言文44	1－15	南相馬市原町、新地町、いわき市内郷、いわき市勿来	《共通語化》その他	「非標準語形」の使用と心理的特性との関わり。分量多い。
46	大橋純一	2005	関東・東北境界域方言の分布パターン	いわき明星大学人文学部研究紀要18	108-118	福島県南東部(いわき市、ほか地点不明『関東・東北境界域言語地図』に即する)	《地理的分布》その他	語彙の地理的分布パターン。
47	本多真史	2005	平行するグロットグラムと平面分布図による言語侵入の立体的把握　北関東から福島県中通り・浜通りにかけて	いわき明星大学大学院人文学研究科紀要3	51－62	浜通り(相馬、原ノ町、小高、浪江、双葉、大野、富岡、竜田、末続、四倉、平、湯本、勿来)	《グロットグラム》その他、《共通語化》その他	グロットグラム調査による共通語侵入傾向の把握。分量多い。
48	大橋純一	2006	方言事象分布における使用語と理解語『関東・東北境界域言語地図』調査に即して	いわき明星大学人文学部研究紀要19	32-43	浜通南部、ほか地点不明『関東・東北境界域言語地図』に即する)	《地理的分布》その他	使用語に対する理解語の比率、その傾向、分布パターン。分量多い。
49	本多真史;加藤浩二	2006	福島県中通り・浜通りにおける方言領域　生活圏との関わりに着目して	言文54	2－11	浜通り	《地理的分布》その他	「氷柱」を例に見た方言領域と生活圏との関係。分量少ない。
50	大橋純一	2006	福島県いわき市平下高久方言の立ち上げ	方言資料叢刊9	15－22	いわき市平下高久	《記述的研究》アクセント、意味・用法	立ち上げ詞の種類。アクセント少し。分量少ない。
51	小林初夫	2006	福島県相馬郡小高町飯崎方言の立ち上げ	方言資料叢刊9		相馬市小高区	《記述的研究》その他	
52	作田将三郎	2006	東北地方における<雷>の地方語史	文化69-3・4(東北大学文学会)	58-324	相馬市、伊達市、いわき市	《記述的研究》その他、《地理的分布》語彙	
53	本多真史	2007	福島県方言「ナイ」について—福島県北部地域を例として	言文55	16-28	飯野町	《記述的研究》文末形式	被災地に隣接
54	大橋純一	2008	福島県いわき市方言の研究　関東・東北接触地域の世代別多人数調査	いわき明星大学大学院人文学研究科日本文学専攻		いわき市	《世代差》語彙	様々な分析を行い，グラフや表が多く示されている。語彙使用の世代差を多面的に見たもの。
55	本多真史	2008	関東・東北接触地帯における新方言普及	言文56	32-42	相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市、飯舘村、川俣町、伊達市、田村市、葛尾村	《グロットグラム》語彙	東北本線、常磐線グロットグラム
56	半沢　康	2010	福島県南相馬市小高区方言の変容　方言実時間調査データの比較	言文57	左2-14	南相馬市小高区	《世代差》音声、アクセント、文法、語彙、方言意識	
57	本多真史	2010	福島県相馬市小高区における方言使用実態 世代差に注目して	言文57	左15-25	南相馬市小高区	《世代差》《共通語化》語彙	多人数調査

⑫ 福島県文献リスト（市町村史）

No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	福島県	1967	福島県史 第24巻 民俗2	福島県	379-491	全県	《記述的研究》《地理的分布》音韻、語彙、文法概説	第六章 言語生活 岩崎敏夫；秋山政一著
2	福島県史料叢書刊行会	1968	福島県郡誌集成15	福島県史料叢書刊行会	301-308	いわき市	《記述的研究》方言集	第四節　方言訛語
3	福島県史料叢書刊行会	1969	福島県郡誌集成16	福島県史料叢書刊行会	156-179	相馬、いわき	《記述的研究》方言集	第五節　方言訛語
4	常葉町	1974	常葉町史	常葉町	572-575	田村市	《記述的研究》音韻、助動詞、方言集	4ページに満たない記述で、それほど詳しくはない。
5	相馬市史編纂会	1975	相馬市史3　各論編2・民俗・人物	相馬市史編纂会	648-659	相馬市	《記述的研究》敬語、その他	第五節　相馬のことば
6	伊達郡役所	1979	伊達郡誌	伊達郡役所	214-231	川俣町	《記述的研究》音声、語彙	第十五章　方言訛語
7	飯舘村史編纂委員会	1979	飯舘村史　第一巻通史	飯舘村	829のみ	飯舘村	《記述的研究》方言集	附資料　第四節　方言訛語
8	新福島風土記編集会	1981	新福島風土記2　福島県の自然と生活	創土社	441-448	相馬、いわき	《記述的研究》音韻、語法、語彙	福島県のことば
9	保原町史編纂委員会 渡辺友左（転載）	1981	保原町史 第4巻民俗	保原町	766-799	伊達市	《記述的研究》語彙、方言集	前半（766-777）「福島北部方言の形容詞語彙体系」（転載、一部改編） 後半（778-799）保原近郷方言集
10	船引町 船引町教育委員会 船引町史編さん委員会	1982	船引町史　民俗編	船引町 船引町教育委員会 船引町史編さん委員会	725-733	田村市	《記述的研究》方言集	第十章　三　方言
11	都路村史編纂委員会	1985	都路村史	都路村	635-652	田村市	《記述的研究》方言集	第四編民俗と宗教 第六節方言と訛語
12	田中正能監修 富岡町史編纂委員会編	1987	富岡町史　第三巻　考古・民俗編	田中正能監修　富岡町史編纂委員会編	925-959	富岡町	《記述的研究》方言集	第十章　第二節　方言
13	川内村史編纂委員会	1988	川内村史　第三巻　民俗編	川内村史編纂委員会	612-642	川内村	《記述的研究》方言集	第十二章　一　方言
14	滝根町史編さん委員会	1988	滝根町史　第3巻民俗	田村市	805-829	田村市	《記述的研究》音声、音韻、語彙、文法	第四節　滝根のことば 方言のほぼ全般にわたる記述が行われている。
15	葛尾村史編纂委員会	1991	葛尾村史	葛尾村	528-549	葛尾村	《記述的研究》方言集、文法概説	品詞ごとに記載。
16	大越町教育委員会町史編さん室	1996	大越町史　第三巻　民俗編	大越町教育委員会町史編さん室	622-644	田村市	《記述的研究》音韻、方言集、文法その他	第一節　第九章　三方言

⑬ 茨城県文献リスト（書籍）

No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	井川作之助（巴水）	1911	茨城百科全書上巻	茨城百科全書発行所	308	水戸市～全域土浦市	《記述的研究》方言集	「茨城方言」(p.189-307)として方言語彙集(方言形－品詞－共通語)を掲げる。
2	佐藤季愛	1936	鹿島郡に於ける方言語彙の研究	私製	174	鹿島郡	《記述的研究》音韻、文法概説、方言集	
3	田口美雄	1954	地調(54) 方言の記述(茨城県新治郡田余村)		81	全域	《記述的研究》音韻、活用、助詞・助動詞	最初に「茨城県方言の概観」があり、そののち音韻、文法とつづく
4	外山善八、金沢直人	1966	水戸地方の方言資料—(附)符牒・符号および隠語—	茨城民俗学会	71	水戸市	《記述的研究》方言集	
5	郷土大観・磯浜志	1969	大洗町史料	大洗町教委	10	大洗町	《記述的研究》音声	方言訛語、俗説、歌謡などについて紹介している。
6	井上史雄・加藤正信・高田誠・徳川宗賢	1971	利根川流域の語の分布	弘文堂発行	11	利根川河口から上流の沼田市南部まで(茨城県33地点)	《記述的研究》方言集	分布地図が多い。
7	茨城教育協会	1975	茨句方言集覧	国書刊行会	255	全域	《記述的研究》方言集	
8	更科公護	1981	茨城こども歳時記〈春夏編〉	筑波書林(土浦)(茨城図書)ふるさと文庫	1-104	全域	《記述的研究》語彙	茨城県のかつての農村における四季折々の子供の遊びを解説したもの。春「たこあげ」～「国とり」(55項目)、夏「五月節供と武者遊び」～「子供と俗信」(73項目)、各0.5～2ページ程度の分量。解説の中に方言形(方言の呼び名)が出てくる。
9	更科公護	1982	茨城こども歳時記〈秋冬編〉	筑波書林(土浦)(茨城図書)ふるさと文庫	105-185	全域	《記述的研究》語彙	春夏編に同じ。春夏編とは別冊だが、ページは通し。秋「チンチロリメ捕り」～「バテン銃」(53項目)、冬「たき火」～「もちつき」(51項目)。
10	遠藤忠男	1983	茨城のことば 上	筑波書林	96	全域	《記述的研究》語彙	上巻はpp.1～96
11	遠藤忠男	1984	茨城のことば 下	筑波書林	194	全域	《記述的研究》語彙	下巻はpp.97～194
12	更科公護	1986	水戸市の動植物方言	筑波書林(土浦)(茨城図書)ふるさと叢書		水戸市		
13	横山俊珠	1986	なんだんべぇ歳時記—茨城のことば・習俗12カ月	川又書店	199	全域	《記述的研究》語彙	
14	市村正二・瀬谷義彦・櫻井明俊	1987	茨城県風土記	旺文社	16	全域	《記述的研究》音韻、アクセント、意味・用法、助詞、活用、文末形式・文末表現、接頭語、表現:あいさつ、敬語、談話資料、その他	
15	波崎町文化財保護審議会	1990	波崎のことば	波崎町教育委員会	132	鹿島郡波崎町	《記述的研究》音韻、文法概説、方言集	波崎町方言の発音と文法の特徴を概説した上で,方言語彙集(方言形－意味－用例の3段からなる)を五十音順に掲げる。
16	赤城毅彦	1992	茨城方言民俗語辞典	大橋信夫	1015	全域	《記述的研究》方言集	辞典として、分量が多い。
17	著者:山形巍 編集・著者:黒澤利康	2003	方言事典－大津あたりの言葉と民俗－	北茨城民俗学会	550	北茨城市(旧大津町)	《記述的研究》方言集	
18	加藤正信ほか編	2004	関東・東北境界域言語地図 常磐線・磐越東線グロットグラム	いわき明星大学人文学部加藤正信研究室	379	北茨城市、高萩市、日立市、ひたちなか市、水戸市	《グロットグラム》音韻、アクセント、語彙、助詞、活用、テンス/アスペクト、条件表現、方言意識	前半は福島浜通、中南部～栃木・茨城県北部の言語地図。後半はグロットグラム。

⑭ 茨城県文献リスト（論文）

No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
1	浅野 長雄	1956	茨城県海産魚類の方言について	魚類学雑誌	33	全域	《記述的研究》方言集	茨城県沿岸以外に、全国の方言も収載。
2	金沢直人	1964	茨城県の竹馬方言の分布	茨城の民俗3				
3	鼓 乙音	1965	水郷玉造を中心とした方言	茨城の民俗4				
4	茨大国研方言ゼミ	1966	茨城県の氷柱方言の分布 資料編(口承文芸)その一 俚諺と昔話(天気・時刻・昔話など)その二 方言・民謡	茨城の民俗5				
5	広瀬半之介	1966	水戸の方言	茨城の民俗5				
6	石馬賢洲	1966	大野村地方の方言	茨城の民俗5				
7	鼓 乙音	1966	水郷玉造を中心とした方言(続)	茨城の民俗5				
8	石馬賢洲	1968	植物動物方言(茨城町)	茨城の民俗6				
9	石馬賢洲	1968	大野村地方の方言(追加)	茨城の民俗6				
10	石黒賢洲	1971	鹿島郡大野地方の方言(その三)	茨城の民俗10	1	鹿島郡大野地方		
11	更科公護	1972	趣味の動・植物方言探訪	茨城の民俗11				
12	野尻洋一	1973	那珂湊の自然発話	フィールドの歩み－生活語研究の記録－(2)	20	那珂湊市	《記述的研究》表現	
13	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の外観	フィールドの歩み4	49-69	日立市	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川尻に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。
14	更科公護	1975	県南地方の動、植物方言	茨城の民俗14				
15	更科公護	1976	霞ヶ浦浮島の動・植物方言	茨城の民俗15				
16	大崎和二他	1978	茨城、千葉両県における慣行田植法の地域性とその成立要因に関する研究 第1報 田植法とそれに関係する方言の分布について	茨城大学農学部学術報告25	89-106	全県	《記述的研究》方言集	方言についてはp.99-101に「方言の分布」として掲載。
17	高井良水	1980	猪川村の方言	茨城の民俗19				
18	更科公護	1983	波崎町の動植物方言	茨城の民俗22				
19	更科公護	1985	茨城のトンボの方言	茨城の民俗24				
20	更科公護	1987	茨城のセミの方言	茨城の民俗26				
21	更科公護	1988	茨城の植物方言	茨城の民俗27				
22	更科公護	1989	バッタと鳴く虫の方言	茨城の民俗28				
23	更科公護	1991	蝶や蛾の茨城方言(付幼虫および蛹)	茨城の民俗30				
24	更科公護	1993	茨城の植物方言－水田やその周辺の草－	茨城の民俗32				
25	大塚 徹	1994	茨城県つくば市谷田部のアスペクト	方言資料叢刊(4)	6	つくば市谷田部	《記述的研究》アクセント	
26	大塚 徹	1995	茨城県岩間町方言の否定の表現	方言資料叢刊(5)	5	茨城県岩間町	《記述的研究》その他	
27	大塚 徹	1997	茨城県西茨城郡岩間町方言の待遇表現	方言資料叢刊(7)	4	西茨城郡岩間町	《記述的研究》敬語	
28	内藤裕之	1999	使役表現「サセル」による待遇法の特徴―北茨城市方言を対象として	地域方言調査研究法	5	北茨城市		
29	二宮 愛	2002	茨城方言の談話展開の方法―『全国方言資料』自由会話を対象として	フェリス女学院大学日文大学院紀要(9)	5	新治郡葦穂村	《記述的研究》談話分析	
30	早野慎吾	2002	東京語話者と茨城語話者のイメージ－水戸市の調査から	名古屋・方言研究会会報19	8	水戸市		
31	早野慎吾	2002	首都近郊都市における方言形の分類－茨城県水戸市の場合－	地域語研究論集：山田達也先生喜寿記念論文集	26	水戸市	《共通語化》その他	
32	山田 伸子	2003	茨城方言話者によるアクセントのスタイル	人文学科論集(28)	17	?	《共通語化》アクセント	
33	早野 慎吾	2006	キャンパスことばの研究常盤大学(茨城県水戸市)の調査から	宮崎大学教育文化学部紀要. 人文科学(通号 14)	23	水戸市	《記述的研究》その他	
34	早野慎吾	2006	無アクセントの比較研究:栃木・茨城アクセントと宮崎アクセントの比較	地域文化研究1	10			
35	本多真史	2008	関東・東北接触地帯における新方言普及	言文56	32-42	北茨城市、高萩市、日立市、東海村、ひたちなか市、水戸市	《グロットグラム》語彙	東北本線、常磐線グロットグラム

No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
36	若狭 あゆみ	2009	茨城県沼田町方言のイントネーションに関する記述音声学的研究	言語学論叢(25)	13	つくば市沼田町	《記述的研究》イントネーション	
37	更科公護	?	動物の方言－茨城町の方言－	?	4	東茨城郡茨城町	《記述的研究》方言集	

⑮ 茨城県文献リスト（市町村史）

No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	鹿島町史	1974	鹿島町史	鹿島町史	514-551	鹿嶋市	《記述的研究》音声、アクセント、方言集	方言
2	長生村史編纂委員会	1960	長生村史	長生村	473-474	長生村	《記述的研究》語彙	「べえ」「アニ（何）」など、その他語彙の列挙。記述はコメント程度。
3	大野村史編さん委員会	1979	大野村史	大野村長	399-401	鹿島郡大野村	《記述的研究》方言集	思いつくまま収集。
4	潮来町史編さん委員会	1996	潮来町史	潮来町役場	921-927	潮来町	《記述的研究》談話	昔話、世間話 全文方言のものあり。 引用元：茨城民俗学会『国鉄鹿島線沿線の民俗』鶴尾能子「潮来・鹿島の昔話資料」
5	高萩市史編纂専門委員会	1969	高萩市史 下	高萩市役所	701-710	高萩市	《記述的研究》方言集、《地理的分布》語彙	
6	東海村史編さん委員会	1992	東海村史9 民俗編	東海村	963-980 998-1000	東海村	《記述的研究》方言集、談話、音韻、文法概説	全体的に語彙が載っている。民俗の解説、説明。 さらに当時の若い世代4人に対して使用語彙、理解語彙を尋ねている。また、節末には談話資料も掲載。充実している。 p.998-1000に当方言の音韻、文法の簡略な解説あり。

⑯ 千葉県文献リスト（書籍）

No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	栗飯原金次郎 神戸直次	1911	千葉縣　方言調査書	栗飯原金次郎 神戸直次	45		《記述的研究》語彙（方言集）	
2	調査者 井田律子	1928	千葉県海上郡高神村地方方言	郷土研究社発行	東条操編の「方言採集手帖」に調査結果を手書き記入したもの	旭市	《記述的研究》語彙（方言集）	名詞・代名詞・形容詞・動詞・雑誌などの単語や文例について掲載。
3	本山桂川	1932	千葉県郡別方言集　上	本山桂川	56	全域	《記述的研究》語彙（方言集）	4点　複写・製本
4	本山桂川	1932	千葉県郡別方言集　中	本山桂川	106	全域	《記述的研究》語彙（方言集）	4点　複写・製本
5	本山桂川	1932	千葉県郡別方言集　下	本山桂川	166	全域	《記述的研究》語彙（方言集）	4点　複写・製本
6	井上平四郎	1933	山武郡方言研究	井上平四郎	55	山武市	《記述的研究》アクセント／音声／音韻	4点　複写・製本
7	塚田芳太郎 編	1934	千葉方言. 第1	千葉方言刊行会	165	千葉	《記述的研究》文法（文法概説）	
8	嚶鳴尋常高等小學校編	1937	嚶鳴村方言	「嚶鳴村々誌」よりの抜刷	？	旭市	《記述的研究》語彙(意味・用法）／音声（音韻）	西沢良澄氏の調査による。特殊語・清音濁音・音韻・対照語彙など
9	安藤操	1942	房総のふるさと言葉	国書刊行会（NPO法人ふるさと文化研究会）	245	九十九里、白子町、いすみ市、銚子市、一宮町、匝瑳市、山武市	《記述的研究》談話、言語行動、語彙（意味・用法）	
10	上智大学史学会, 史学研究会編	1968	東上総の社会と文化：千葉県長生郡総合調査	上智大学史学会,史学研究会		長生	未確認	
11	川名興	1969	千葉県の植物方言 第一報	第3報の発行地は[鋸南町(千葉県)]	135	全域	《記述的研究》語彙（方言集）、《地理的分布》語彙（意味・用法）	
12	川名興	1969	千葉県の動物方言 第一報	川名興	145	全域	《記述的研究》語彙（方言集）、《地理的分布》語彙（意味・用法）	
13	川名興	1970	千葉県の動物方言 、千葉県の植物方言 第二報	川名興	76	全域	《記述的研究》語彙（方言集）、《地理的分布》語彙（意味・用法）	
14	川名興	1971	千葉県の動物方言 、千葉県の植物方言 第三報　上	川名興	249	全域	《記述的研究》語彙（方言集）、《地理的分布》語彙（意味・用法）	
15	川名興	1971	千葉県の動物方言 、千葉県の植物方言 第三報　中	川名興	260	全域	《記述的研究》語彙（方言集）、《地理的分布》語彙（意味・用法）	
16	川名興	1971	千葉県の動物方言 、千葉県の植物方言 第三報　下	川名興	209	全域	《記述的研究》語彙（方言集）、《地理的分布》語彙（意味・用法）	
17	椎野秀峯 編	1971	長生地方の童謡と民謡方言里諺集	東総園,	237	長生	《記述的研究》語彙（方言集）	
18	徳川宗賢・坂本真理子	1974	千葉県夷隅川流域方言地図	学習院大学方言研究会（夷隅のことばをたずねる会）	48図	いすみ	《地理的分布》語彙	動物名・植物名・日常用語・遊び・動詞など48の語の地図
19	塚田芳太郎[等]編	1975	千葉方言. 山武郡篇	青史社、合同出版	110	山武	《記述的研究》音韻／活用／その他	
20	川名興	1975	富津市（旧富津町）の動物方言基礎資料；富津市（旧富津町）の動・植物方言 その2-その3		？	富津	《記述的研究》語彙（方言集）	「その2」は植物方言名を併載。29種の動物名の異名の調査。
21	戸石四郎, 戸石芳江[共]著	1981	銚子の民俗と方言	崙書房	179	銚子	《記述的研究》語彙（方言集）／文法（文法概説）	
22	千葉県教育委員会	1981	千葉県方言の自然談話1	千葉県教育委員会	778	長生郡、海上郡（現・旭市）	《記述的研究》談話	
23	戸石史郎；戸石芳江	1981	銚子の民俗と方言2	崙書房	90-91	銚子市	《記述的研究》音韻、文法概説、接続表現、助詞	「銚子方言の特色私見」ふるさと文庫（新書）
24	山本熊之助	1982	私の銚子方言考	工面堂	111	銚子	《記述的研究》語彙（方言集）	
25	千葉県教育委員会	1982	千葉県方言の自然談話2	千葉県教育委員会	821	長生郡、海上郡（現・旭市）	《記述的研究》談話	
26	川名興	1983	千葉県の方言の特徴		2	全域	《記述的研究》文法（文法概説）／語彙（意味・用法）	
27	千葉県教育委員会	1983	千葉県方言の自然談話3	千葉県教育委員会	624	長生郡、海上郡（現・旭市）	《記述的研究》談話	昔の海岸のようす、子どもの頃の遊びといった談話を収録
28	学習院大学方言研究会	1983	千葉県夷隅川流域新方言地図	学習院大学方言研究会	頁付なし	いすみ	《地理的分布》語彙	

No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
29	更科公護	1985	水戸市の動植物方言 動物編	筑波書房(土浦)	1-78	水戸市	《記述的研究》語彙	昆虫類、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、獣類についての解説。人々の暮らしの中の動物という視点から。共通語名を示し、その動物について百科辞典的な解説をする中で方言も示している。各項目3分の1ページ平均。他に語形索引15ページを付す。新書(ふるさと文庫)
30	更科公護	1985	水戸市の動植物方言 植物編	筑波書房(土浦)	79-163	水戸市	《記述的研究》語彙	雑草や庭の植物、樹木、苔やきのこ、農作物についての解説。(以下、動物編に同じ)他に語形索引13ページを付す。動物編とは別冊だが、ページは通し。
31	川名興	1986	千葉県の植物方言(6)-(10)	野外植物研究会刊「野草」No.399(vol.50), No.403(vol.51), No.405(vol.51)-No.406(vol.51), No.409(vol.52)よりの複写 昭和59-昭和61	8	全域	《記述的研究》語彙(方言集)	
32	銚子市教育委員会 編.	1988	銚子のことば	銚子市教育委員会編.	119	銚子	《記述的研究》文法(文法概説)／音声／音韻／アクセント、語彙(方言集)	
33	小高昇	1990	一宮地方方言集	一宮町	34	一宮	《記述的研究》語彙(方言集)	
34	川名興	1992	千葉県のモクズガニの方言	日本甲殻類学会発行「Cancer」第2号別刷(p3-6)		全域	《地理的分布》語彙(意味・用法)	
35	井上史雄 [ほか]編.	1995	関東方言考. 2 (群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県) /	ゆまに書房	658	全域	《記述的研究》文法(文法概説)	
36	石橋満壽男	1996	千葉訛 : 方言集	東京文芸館	198	全域	《記述的研究》語彙(方言集)	
37	銚子市教育委員会 編.	1996	銚子のことば	銚子市教育委員会編.	124	銚子	《記述的研究》文法(文法概説)／音声／音韻／アクセント、語彙(方言集)	改訂増補第2版.
38	篠崎晃一ゼミ編	1996	千葉縣白子町方言調査報告書	東京都立大学人文学部	142	白子町	《記述的研究》音声／語彙(意味・用法)／文法(助詞)／待遇表現／方言意識	
39		19—	千葉縣夷隅郡誌 : 方言の部	「千葉縣夷隅郡誌」方言の部を筆写したものか?	?	いすみ	《記述的研究》語彙(方言集)	

⑰ 千葉県文献リスト（論文）

No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
1	大久保初男	1889	上総国長柄郡一ノ宮	人類学雑誌4	?	一ノ宮町		
2	蓋山處士	1916	九十九里浜方言考	風俗画報477		九十九里町	《記述的研究》語彙（方言集/意味・用法）	
3	日本民俗研究会	1932	千葉縣郡別方言集中巻	民俗研究43	104	全域	《記述的研究》語彙（方言集）	
4	日本民俗研究会	1932	千葉縣郡別方言集下巻	民俗研究46	?	全域	《記述的研究》語彙（方言集）	
5	浅野栄一郎	1936	千葉県長生郡の村言	方言誌16	?	長生郡	《記述的研究》語彙（方言集）	
6	林天然編	1939	房総方言集（1）	千葉文化8月号	5	長生郡	《記述的研究》語彙（方言集）	8月号～12月号で1冊
7	林天然編	1939	房総方言集（2）	千葉文化9月号	5	長生郡	《記述的研究》語彙（方言集）	8月号～12月号で1冊
8	林天然編	1939	房総方言集（3）	千葉文化10月号	5	長生郡	《記述的研究》語彙（方言集）	8月号～12月号で1冊
9	林天然編	1939	房総方言集（4）	千葉文化11月号	5	長生郡	《記述的研究》語彙（方言集）	8月号～12月号で1冊
10	林天然編	1939	房総方言集（5）	千葉文化12月号	5	長生郡	《記述的研究》語彙（方言集）	8月号～12月号で1冊
11	中村 通夫 他.	1958	千葉方言におけるいわゆる「語中K音の脱落現象」の調査（中間報告）	中央大学国文.	?	全域	《記述的研究》音声（音声）	
12	W.A. グロータース　柴田武	1959	千葉県アクセントの言語地理学的研究	国語学37	?	全域	《地理的分布》音声（アクセント）	
13	金田一春彦	1960	房総アクセント再論ーグロータースさんの「千葉県アクセントの言語地理学的研究」を読んで	国語学40	2	房総半島	《地理的分布》音声（アクセント）	
14	中村正紀	1968	一ノ宮町東浪見地区方言集稿	上智大学方言学会会報37	16	全域	《記述的研究》方言集	
15	中条修	1971	千葉県山武町方言の音韻	都立大学方言学会会報37	?	山武町	《記述的研究》音声（音声/音韻）	
16	川名興	1971	千葉県の植物方言	『新版　千葉県植物誌』千葉県生物学会編　井上書店		全域	《記述的研究》語彙（方言集）	
17	加藤昭	1972	外川ことばの音声面における特徴	フィールドの歩み1	18	銚子	《記述的研究》音声（音背/音韻）	漁に関する語。分量少ない。
18	野尻洋一	1972	『外川の自然と人間』	フィールドの歩み1	18	銚子	《記述的研究》音声（音背/音韻）	風と潮に関する語。分量少ない。
19	大橋勝男	1972	関東地方の方言についての言語地理学的研究	新新潟大学教育学部紀要14号. 人文・社会科学編 / 新潟大学教育学部 編	12	全域	《地理的分布》語彙	千葉県の方言調査地点は29地点
20	川名興	1972	生物方言の教材化	理科教育研究11ー5（千葉県教育センター発行）	2	富津	《記述的研究》語彙（方言集）	
21	川名興	1972	生物方言の教材化	理科教育研究11-5	6-7	安房郡	《記述的研究》語彙	
22	村上昭子	1973	外川の自然発話（1）	フィールドの歩み2	34	銚子	《記述的研究》音声（音背/音韻）	会話に見られる音韻。分量やや多い。
23	大島一郎	1973	千葉県山武町方言の語法	人文学報96	24	山武町	《記述的研究》活用	形態と表現について。分量やや多い。
24	川名興	1975	千葉県でのネコハエトリの方言	房総文化研究所発行「房総文化」第13号 よりの抜刷(p13-23)	?	全域	《地理的分布》語彙	
25	川名興	1975	千葉県の主な生物方言	日本生物教育会第30回全国大会（千葉大会）実行委員会「千葉県の生物」編集部編「千葉県の生物」（1975.8刊）別刷	14	全域	《記述的研究》語彙（方言集）	
26	川名興	1975	千葉県の植物方言	新版千葉県植物誌	316-320	安房郡、夷隅郡	《記述的研究》方言集	安房郡、夷隅郡における動植物の方言名について、地点名を載せながら数十語掲載してある。
27	川名興	1975	千葉県の主な生物方言	千葉県の生物別刷	227-241	全県	《記述的研究》方言集	千葉県の動植物名を掲載。26項目。地点名あり。
28	川名興	1975	千葉県でのネコハエトリの方言	房総文化13	13-23	富津市、全県	《記述的研究》語彙	
29	青柳精三	1977	九十九里浜片貝の鰯巻網漁の語彙	フィールドの歩み10	32	九十九里町片貝	《記述的研究》意味・用法	漁に関する語彙。説明あり
30	伊東裕子	1977	千葉県九十九里浜片貝の風	フィールドの歩み10	4	九十九里町片貝	《記述的研究》意味・用法	風に関する語。分量少ない
31	川名興	1977	千葉県のゴキブリの方言	千葉県生物学会発行「千葉生物誌」26巻2号 別刷(p93-	9	全域	《地理的分布》語彙	

No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
32	大崎 和二 他	1977	茨城,千葉両県における慣行田植法の地域性とその成立要因に関する研究-1-田植法とそれに関係する方言の分布について	茨城大学農学部学術報告 / 茨城大学農学部 [編].	17	全域	《地理的分布》語彙(意味・用法)	
33	太田守	1977	千葉県九十九里浜片貝の潮	フィールドの歩み10	5	九十九里町片貝	《記述的研究》意味・用法	潮に関する語。分量少ない
34	川名興	1977	千葉県のゴキブリの方言	千葉生物誌26-2	93-102	全県	《地理的分布》語彙	ゴキブリの方言について、千葉県全域の語形分布を地図化してある。
35	川名興	1978	富津市富津の方言分布図：特に老人と中学生の場合	千葉県生物学会刊「千葉生物誌」Vol. 27 No. 1,2(1978.2刊)の別刷 参考文献: p123-124	12	富津	《地理的分布》語彙	
36	川名興	1978	富津市富津の方言分布地図　特に老人と中学生の場合	千葉生物誌(創立30周年記念号)別刷 27-12(通巻66)	123-133	富津市	《地理的分布》語彙、世代差	動植物の方言(26項目)について、富津市の明治生まれと当時中学3年生のその孫を対象に調査。26項目について地図を作成してある。
37	川名興	1981	富津市青木海岸の海藻　富津市西川での海産物方言	安房生物愛好会『冬虫夏草』No16	2	富津	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
38	川名興	1981	富津市西川での海産物方言	冬虫夏草16	56-57	富津市	《記述的研究》方言集	20程度の語。
39	川名興	1982	佐倉の鳥の方言	安房生物愛好会『冬虫夏草』No18	3	富津	《記述的研究》語彙(方言集)	
40	川名興	1983	千葉県方言の特徴	房総半島の孤島性とその文化の研究	2	全域	《記述的研究》文法(文法概説)	『トヨタ財団助成研究報告書』(房総半島の孤島性研究会　研究代表者鈴木晃)
41	伊藤一也	1983	千葉方言の文法—山武方言の名詞・動詞の形態論	琉球方言と周辺のことば	40	山武町	《記述的研究》文法概説	名詞・動詞の形態論。分量多い。用例多い。
42	伊藤一也	1984	千葉方言の文法から--「ニ」格,サ格,「ヲ」格,ンコド格のはりあい関係をみる	国文学：解釈と鑑賞 / 至文堂 編	11	全域	《記述的研究》文法(助詞)	
43	川名興	1986	植物の方言にみる命名の民俗学的考察	『日本民俗学』日本民俗学会編	9	全域	《記述的研究》その他	
44	篠崎晃一	1991	千葉方言における動詞・形容詞の活用	人文学報 / 首都大学東京都市教養学部人文・社会系, 東京都立大学人文学部 編	21	全域	《記述的研究》文法(活用)	
45	佐藤亮一	1991	千葉県銚子市高神東町における祝言のあいさつ	方言資料叢刊1	6	銚子市	《記述的研究》談話資料・語彙(意味・用法)	
46	篠崎晃一	1991	千葉方言における動詞・形容詞の活用	人文学報225	59-80	旭市、勝山市	《記述的研究》活用	その他、長生郡長南町小沢、印旛郡本埜村が調査地点。
47	佐藤亮一	1992	千葉県銚子市田神東町方言における身体感覚を表すオノマトペ	方言資料叢刊2	6	銚子市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
48	浅尾 公司	1994	外房・大原の方言に関する一考察	環境社会学研究 / 千葉大学教育学部社会学研究室 [編]	2	いすみ	《記述的研究》語彙(意味・用法)／談話	
49	藤崎晃一	1995	地域社会への新語の浸透　山形県東田川郡三川町と千葉県長生郡白子町との比較	人文学報266	13	白子町	《共通語化》語彙(意味・用法)	新語の浸透。分量少ない。
50	江波戸絹代	1998	千葉県下の高校生の方言使用の状況	日本文學誌要58	14	全域	《共通語化》音韻、語彙、文法、その他	卒業論文
51	小嶋小百合	2003	千葉の方言について--特に「アオナジミ」を中心として	昭和学院國語國文., (36) 2003.3	6	全域	《地理的分布》語彙	
52	川名興	2003	海辺の人々からみた天文・気象方言と天気の言い伝え　銚子、九十九里、白浜、富津、金田	千葉県立安房博物館研究要綱10、『研究紀要』(抜き刷り)	42	銚子の一部、九十九里町、白浜町、富津市、木更津市	《地理的分布》語彙(意味・用法)	
53	川名興	2003	海辺の人々からみた天文・気象方言と天気の言い伝え　銚子、九十九里、白浜、富津、金田	千葉県立安房博物館研究要綱10	3-42	銚子市、九十九里町、白浜、富浦、金田	《記述的研究》《地理的分布》語彙	アンケート結果の掲載。
54	小嶋小百合	2003	千葉の方言について特に「アオナジミ」を中心として	国語国文36(昭和学院短期大学)	28-34	富津市	《記述的研究》語彙	

⑱ 千葉県文献リスト（市町村史）

No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	山田角次郎	1900	香取郡誌　合巻	山田角次郎	93-97	香取郡	《記述的研究》方言集	方言
2	夷隅郡役所	1923	千葉県夷隅郡誌	夷隅郡役所	745-777	いすみ市	《記述的研究》方言集、意味	第二十二章　方言訛言
3	木更津市史編集委員会	1972	木更津市史	木更津市	1013-1022	木更津市	《記述的研究》方言集	木更津方言について分野別に代表的語彙を収録。方言については他文献からの引用。その他、俚諺、俗諺、伝説などの資料が多くある。
4	勝田市史編さん委員会	1975	勝田市史民俗編	勝田市	827-828	勝田市	《記述的研究》アクセント	四、うたと遊び　2、子どもの遊びの歌　茨城方言とわらべ歌（わらべ歌と無アクセントとの関係について短く触れている）
5	干潟町史編纂委員会	1975	干潟町史	干潟町	1541-1566	旭市	《記述的研究》方言集	方言を五十音順に配列。語数は比較的多い。
6	山武郡教育委員会	1976	山武郡郷土誌	崙書房	208-221	山武郡	《記述的研究》方言集	第十六章風俗　第二節言語 山武郡方言集として挙げられている。
7	長生村風土記編集委員会	1980	長生村風土記　明治・大正篇	長生村教育委員会	367(345～357)	長生村	《記述的研究》語彙（方言集）	
8	飯岡町史編さん委員会	1981	飯岡町史付篇	飯岡町	327-338	旭市	《記述的研究》方言集	海上郡誌、小見川町史、干潟町史より収集。 俚言のみ。
9	木更津市史編集委員会	1982	木更津市史 富来田編	木更津市	512-524	木更津市	《記述的研究》方言集	木更津市内旧富来田地区で用いられている方言について、『富岡村誌』『富来田子供風土記』から引用掲載している。語数は余り多くない。
10	岬町史編さん委員会	1983	岬町史	岬町	1285-1296	いすみ市	《記述的研究》方言集	方言を五十音順で列挙。方言の出典は「古沢村誌」「中根村誌」「夷隅郡誌」など。
11	銚子市	1983	続銚子市史Ⅱ昭和後期	銚子市	796-817	銚子市	《記述的研究》音声、音韻、終助詞、語彙、敬語	方言概説
12	千倉町史編さん委員会	1985	千倉町史	千倉町	801-803	南房総市	《記述的研究》方言集	千倉町方言について分野別に代表的語彙を収録。その他、俚諺、俗諺、民謡、ほめ言葉などについて記載あり。
13	大網白里町史編さん委員会	1986	大網白里町史	大網白里町	1232-1239	大網白里町	《記述的研究》方言集	当地域の特色を持つ方言について方言五十音順に列挙（『山武郡郷土誌』を参照） 他に俚諺などが多少記されている。
14	長生村風土記編集委員会	1988	長生村風土記　昭和篇	長生村教育委員会	222(32)	長生村	《その他》方言にまつわる随筆	
15	白子町風土記編纂委員会編	1989	千葉県長生郡白子町風土記	白子町風土記編纂委員会	?	白子町	《記述的研究》語彙（方言集）／文法（文法概説）	二．方言・訛語（1）方言の現状　（2）訛語の現状（3）収録の範囲
16	九十九里町誌編集委員会 編	1992	九十九里町誌　各論編　下巻	九十九里町	1246（782～797	九十九里	《記述的研究》文法（文法概説）、語彙（方言集・意味・用法）	
17	夷隅町史編さん委員会	2004	夷隅町史通史編	夷隅町	966-980	いすみ市	《記述的研究》方言集	五十音順、会話からの聞き取りによる方言。